

# 上山草人年譜稿(四)

——谷崎潤一郎との交友を中心に——

細江光

(お断りと訂正)

本稿は、「甲南女子大学文学部研究紀要」第39号(平成十五年三月刊)に掲載した「上山草人年譜稿(三)」——谷崎潤一郎との交友を中心に」の続編である。

前回の年譜稿の34ページ下段(大正六年/4・28谷崎「晩春日記」(ただし4・30と誤る)(土)雨。帝劇で衣川孔雀と会う。)の次の一文(飼主「寺木定芳?」と先日赤坂へ、この間は鶴見の花香園へ行つたと言ふ。)は誤りで、以下のように訂正する。

《孔雀は、谷崎が草人を慰めようと、先日は赤坂へ伴い、この間は鶴見の花香園へ誘つて行ったことを知っていたので、谷崎は驚いた。》

また、前回は見付けることが出来なかつた上山草人の「俳優奪取事件」という文章が「演芸倶楽部」大正3年6月号に掲載されている事が判明し、読むことが出来たので、22ページ下段(大正三年/6草人の「武器の奪ひ合ひ(上)」(T4・3・11「読売新聞」)に、この月の「演芸画報」に、芸術座が近代劇協会の俳優を再三再四奪取した事についての両者の書簡を公開した、とある。)の後の、《が、見当たらない。他の雑誌の誤りか?》を削除し、《が、「演芸倶楽部」の誤り。》とする。

また、「俳優奪取事件」に基づき、以下のように記事を追加する。

## ◆大正二年◆(1913)三十歳

9・19 芸術座が、創立第一回公演として、有楽座でメーテルリンク作「内部」と「モンナ・ヴァンナ」上演(田中栄三「明治大正新劇史資料」)。

※上山草人「俳優奪取事件」(「演芸倶楽部」T3/6)によれば、芸術座創立の際、芸術座の幹部俳優・小野益太郎が芸術座を脱退して近代劇協会への入会を申

## ◆大正三年◆(1914)三十一歳

3・26 帝劇で芸術座がトルストイ作「復活」と中村吉蔵作「嘲笑」を上演。この時から、武田正憲が参加・出演。

※「演芸倶楽部」T3/6上山草人「俳優奪取事件」によれば、(伊庭孝の)新劇社に居た武田正憲は、本年2月近代劇協会の第8回興行に出演する約定を経、報奨金の一部を前渡しし、広告にもその名を載せていたのに、突然、芸術座に走り、芸術座からは前渡し金を返して来ただけで、何の交渉もなかった。

※伊庭孝「新劇社の思ひ出」(「新演芸」T14/1)によれば、武田正憲は、須磨子の相手役として芸術座創立時に参加する筈だったのを、伊庭が月給30円で抱えたと言ふ。従つて、芸術座および武田側からすれば、武田の参加は当然だった訳であろう。

4・16 芸術座は大阪道頓堀浪花座でトルストイ作「復活」と中村吉蔵作「嘲笑」を再演(田中栄三「明治大正新劇史資料」)。

※「演芸倶楽部」T3/6上山草人「俳優奪取事件」によれば、この際、芸術座の女優・松島千鳥が脱出した穴を埋めるためか、近代劇協会の松良静緒を無断で拉し去つた。

※田中栄三「明治大正新劇史資料」では、浪花座での配役は確認できないが、同年7月の研究劇「ヒヤシンス・ハルヴェー」から、松良静緒の参加が確認できる。

17 有楽座で近代劇協会第五回興行。イブセン作森鷗外訳「ノラ」・ハウプトマン作森鷗外（実は小山内薫？）訳「ハンネレの昇天」を上演。配役はノラとハンネレを衣川孔雀、リンデ夫人を浦路など。森鷗外を協会顧問とプログラムに明記。特等1円50銭、一等1円、2等40銭（田中栄三「明治大正新劇史資料」松本克平「日本新劇史」）。

26 ※「演芸倶楽部」T3／6上山草人「俳優奪取事件」によれば、この時出演した住田良三は、（伊庭孝の）新劇社に居たが、新劇社解散後、近代劇協会に入つたもの。ところが、芸術座が浪花座の興行から帰京すると、住田は芸術座に勧誘されて、近代劇協会を去つた。

5・10 草人は、芸術座 島村抱月宛に住田良三を雇用しないよう申し入れる手紙を出した。以後、数回の手紙のやりとりがあつたが、5月14日付けで、島村抱月から、住田良三が望むのであれば、芸術座が雇用しても差し支えないと思う、という返事があつた（「演芸倶楽部」T3／6上山草人「俳優奪取事件」）。

以下が、前回の続稿である。

◆大正十五年・昭和元年◆ (1926) 四十三歳

1 「イブの葉 (Eve's Leaves)」製作。草人は馬賊の頭目 Le Sing 役で出演（「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database）。

8 牛原虚彦が横浜を出航（牛原虚彦「虚彦映画譜50年」）。

26 ロサンゼルスに牛原虚彦到着。草人は体調不良の為、浦路と東西時報社の水田俊雄が停車場に出迎える。サウス・アードマー・アベニウの草人の新居で初対面。早速、草人の新車ダッチブラザーズのセダンでハリウッドを一回りし、夜は映画「蝙蝠」の撮り直しを見学（「映画往来」T15／4牛原虚彦「ハリウッドより」）。

27 ※牛原虚彦「虚彦映画譜50年」P136・142・149に草人・浦路の珍しい写真あり。以後、帰国まで草人宅に滞在する。

3 牛原をデミル撮影所とメトロゴールドウィンメイヤーへ案内。デミル撮影所の「Eve's Leaves」（上山草人助演）らを見学する許可を得る。草人の人気は大したもの。街を散歩していても、みんなが名を呼ぶ。ニューヨークで「海の野獣」が封切られ、東部での草人の評判は大したもの。週刊紙「ハリウッド・フィルモグラフィ」や「ロサンジェルス・タイムズ」も激賞。大雑誌「ハリウッド・ライフ」が、ルビッチュ監督に、ラテン系・ドイツ系・ロシア系・東洋系の民族を演じさせるとしたら、それぞれの俳優が理想かを訊ねた所、東洋系はアンナ・メイ・ウォンと草人を選び、「This fellow is a master of little miniature movements which are characteristic of the Oriental.」と評した（牛原虚彦「ハリウッドより」および3・27「東京朝日新聞」牛原虚彦「スタヂオにイースを持って」上（二月二日夜））。

3 草人・南部邦彦・駒井哲「いずれも映画俳優」と牛原でダグラス・フェアバンクスの撮影所に行く（「映画往来」T15／5牛原虚彦「ハリウッドより」）。

4 「Eve's Leaves」の撮影開始。牛原虚彦は勉強のため、エキストラとして出演（「映画往来」T15／6牛原虚彦「ハリウッドより」）。

11 メトロ・ゴールドウィンから草人に電話があり、浦路が代理で出掛けるのに、牛原も同行。アーキ・メイヨ監督が牛原に出演を依頼。翌日からカメラ・テスト（牛原虚彦「ハリウッドより」）。ただし後日、出演は別人に決まった（「映画往来」T15／8牛原虚彦「ハリウッドより」）。

14 草人・浦路は牛原を連れて、日本領事・大橋忠一の私宅を訪問。牛原の映画をハリウッドの製作者・監督・俳優・批評家に紹介するために協力を依頼。上映会を催すことがその場で決まる（「映画往来」T15／7牛原虚彦「ハリウッドより」）。

15 牛原の希望で、在米中国人による中国映画を、草人・浦路・平八・水田俊雄・サム高橋（俳優志望で草人の内弟子）と観に行く（牛原虚彦「ハリウッドより」）。

19 フィガロ劇場で行われる草人の出演映画「海の野獣」のオープニングナイトに、牛原も一緒に行く。劇場の外でも中でも、草人は「ソージン！ ソージン！」という歓呼の声に包まれる（牛原虚彦「ハリウッドより」）。

22 牛原は、チャップリンの撮影振りを数日間見学した後、チャップリンの秘書・高野氏からの電話で、この日からチャップリンの映画「サーカス」のエキストラになる。四百名ものエキストラを自由自在に動かす神業のような手腕に脱帽する（「映画往来」T15／8牛原虚彦「ハリウッドより」）。

3 「ニューヨーク新報」に草人の「性格俳優の悲哀」掲載。のち「素顔のハリウッド」に再録（工藤美代子「聖林のモンゴル王子」）。

5 「マンタレイへの道 (The Road to Mandalay)」製作。草人はイギリス人 Charlie Wing 役で出演（「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database）。

中央映画社の森若雄がロサンゼルスに着く。すぐ草人の車でホテルまで出掛け、

24	森岩雄「私の芸界遍歴」によれば、森岩雄は、欧米の映画買い付けと、村田実監督の映画「街の手品師」の欧米への売り込みと、欧米視察のために、前年七月十日に日活の村田実監督、築地小劇場の竹内良一と、ヨーロッパに渡り、ベルリン・パリ・ロンドン・ニューヨークを回って、ロサンゼルスに着いた。3月5日午後2時にロサンゼルスのサンタ・フィ・ステーションに到着。日本人街のイーグル・ホテルに一泊。しかし、草人の好意で、以後は草人宅に世話になった。森岩雄は草人宅に同居する。以後、森と牛原は一緒に撮影所や劇場などを見て歩く（「映画往来」T15/8牛原虚彦「ハリウッドより」）。	6
9	※森岩雄「私の芸界遍歴」によれば、ハリウッドは、撮影所の設備もセットのスケールも大規模で、日本の場合とは比較にならないため、ただ驚くだけで、参考にもならなかった。	
15	※森岩雄の「THIS IS SOJINI」(「女性」S3/3)によれば、森に草人の撮影現場を見て貰いたいばかりに、ある会社から来た余り気乗りのしない仕事を引き受け、森・牛原・永田と出掛けた。しかしそれは、悪党の一人という役柄だったため、草人は怒り、「This is Sojini」と怒鳴るなどして、盗みは他の役者が演ずることになった。撮影の合間に、草人が日本でシエルクスピアを上演していたと知った他の俳優は、俄に敬意を払い出した。草人は森に、「激しい人種的偏見の中で日本国を背負って仕事をする苦勞を知って貰えて却って好かった」と言った。「読売新聞」記事「漂泊人」を見る。草人が宝石商サダイクで出演している。	
21	ロサンゼルス日本領事の配慮で、ハリウッド一流のアンバサダー・ホテルにアメリカのプロデューサー、監督、俳優を招いて、牛原虚彦が持参した日本映画「象牙の塔」と「乃木將軍」の試写会が行われた。レセプションでは、日本領事と共に草人も入り口に並んで、招待客を迎えた。牛原の挨拶の原稿を、永田俊雄が手伝った（牛原虚彦「虚彦映画譜50年」）。	
21	※森岩雄「私の芸界遍歴」によれば、森岩雄は、この手伝いをするために、日本への帰国を一船遅らせた。	
21	みんなでMGMのアートディレクターをしているエドワード今津氏を訪問して話を聴く（「映画往来」T15/9牛原虚彦「ハリウッド映画日記」）。	
24	森岩雄「私の芸界遍歴」によれば、森岩雄は、この日、敬愛するチャップリンと話す事が出来、感激の余り涙を抑える事が出来なかった。	
26	森岩雄は帰国を十日遅らせ、この日、サンビドロ港発サイベリア丸で帰国。草人・浦路・永田・牛原などで見送る（「映画往来」T15/8牛原虚彦「ハリウッドより」）。	26
4	※森岩雄は後に、草人を「革命家の風貌、酒と議論を愛す、日本を恋しがって日本の夢ばかり見ている」（朝日新聞社「日本映画年鑑」第4年版）と評している（「日本映画俳優全集・男優編」）。	
4	第二次「映画評論」創刊号に、上山草人「性格俳優の悲哀」（のち「素顔のハリウッド」に再録）と寺崎広載「上山草人氏のこと」掲載。他に、佐々木能理男「ウツァリアエテ」に就て、寺崎広載「鉄路の白薔薇のガンス」、佐々木不味男「チャップリンに望む」、木賊一「雑種芸術の没落」、コンラッド・ファイト「あばたも鬚」の演出」が掲載されている。佐々木能理男・寺崎広載は第一次の同人。佐々木能理男は、映画評論家として名を成した。	
4	※第一次「映画評論」は、大正14年9月に創刊された旧制二高関係者による同人雑誌だったが、4冊で中断していた。そこへ、ロサンゼルスに居ながら執筆同人となっていた永田敏雄「草人のもとで東西時報社を任されていた永田俊雄」から草人に依頼した原稿が届いたことから、旧同人・寺崎広載の兄・広載が経営面の中心になって映画評論社を起し、「映画評論」を復刊した。この雑誌は昭和十五年末まで続き、「キネマ旬報」と並ぶ映画雑誌として大きな功績を遺すことになる（「日本近代文学大事典」）。	
4	※寺崎広載・広節が寺崎広業の子息で、草人と面識があった事も、原稿依頼の際、伝えていたか？	
4	※寺崎広載は「上山草人氏のこと」で、草人は「言葉にこそナマリはあるが表情と云ふ点では異常にすぐれた処を持つて居た。だから映画俳優としての方が舞台俳優としてよりも氏に適してゐるわけだ。」と述べている。	
4	「映画往来」に牛原虚彦「ハリウッドより」連載。	
4	「東京日日新聞」に西村楽天の上山草人評掲載（工藤美代子「聖林のモンゴル王子」）。	
16	「大阪朝日新聞」が全費用を負担して水谷八重子に三ヶ月間ハリウッド見学をさせてくれることになり、竹紫夫妻も同行して、横浜からアメリカに出航（水谷八重子「女優一代」）。	16
16	水谷八重子・竹紫、シアトル着（水谷八重子「女優一代」）。	16
29		29

5, 6, 8	「女性」に谷崎の『上海交遊記』連載。上山草人の名前も出る。			
5	「外交 (Diplomacy)」製作。草人は中国の大使役で出演 (上山草人出演映画目録) と Internet Movie Database)。			
7	水谷八重子・竹紫、ロサンゼルス着。駅に草人夫妻・牛原虚彦が出迎え、草人宅に宿泊させる。草人は噂とは大違いのハイカラな紳士だった。ハリウッド見学はすべて草人の案内で、ワーナー、フォックス、フェアバンクス、メトロ・ゴールドウィン、ユニバーサル、チャップリンなどの撮影所を見る (水谷八重子『女優一代』)。			
6	「東西時報」はこの月の第二十七号を以て廃刊された (蛭原八郎『海外邦字新聞雑誌史』)。			
7	水谷八重子・竹紫は、この日からニューヨークの劇場を見学 (水谷八重子『女優一代』)。			
23	「東京朝日新聞」に上山草人らの写真入りで記事「フォックス撮影所の八重子」掲載。			
7	「演劇・映画」川口松太郎「映画界の志士上山草人」によれば、諸口十九・森若雄・牛原虚彦・水谷八重子は、外遊中、ハリウッドで草人の世話になった。			
7	※工藤美代子『聖林のモンゴル王子』によれば、滝村和男も。			
7	※滝村和男は浦路の母方の従弟。Japanese Movie Database によれば、1938〜60年までの間に、東宝・新東宝・滝村プロ・東映・宝塚映画で計106本の映画制作に携わっている。			
7	サンフランシスコ付近の海岸に釣りに出掛けていた草人は、天洋丸で帰国する牛原虚彦をサンフランシスコ港で待ち合わせて別れを惜しんだが、ちょうどワーナーから「太平洋を超えて」への出演依頼があり、慌ただしくロサンゼルスに戻り、すぐに撮影に入った。その後、草人と浦路が、ルビッチ監督映画「ソウ デイズ イズ パリス」【邦題「陽気な巴里っ子」】のオープニングナイトに出席すると、大劇場を埋め尽くした世界各国の前で、「グレートベスト・オリエンタル・キャラクター・ミスター SOJIN」と紹介され、浦路は三年前までの苦労を思い出し、暫く感激が冷めやらなかった (映画時代) T15/10 牛原虚彦「草人氏と私」。			
7	「太平洋横断 (Across the Pacific)」製作。草人はスペインの密偵役で出演 (上山草人出演映画目録) と Internet Movie Database)。			
13	「読売新聞」記事「草人のこの頃「バット」の撮影中のとんだ失敗ばなし」掲載。			
17	「読売新聞」記事「今は老ひても昔は選手 (11)」に草人のことが出る。			
22	水谷八重子・竹紫は、牛原虚彦監督と一緒に船で、横浜港に帰国 (都新聞) T15/7/23)。			
8	「キング・オブ・キングズ (The King of Kings)」製作。草人はベルシヤの王子役で出演 (上山草人出演映画目録) と Internet Movie Database)。			
1	大阪松竹座で、草人出演アメリカ映画「海の野獣」(原作はメルヴィルの『白鯨』) 封切り (『日本映画作品大鑑』「松竹七十年史」『キネマ旬報』228・230)。			
11	※谷崎も見た (谷崎『上山草人のこと』)。			
6	東京館で、草人出演アメリカ映画「スエズの東」封切り (『日本映画作品大鑑』「キネマ旬報」229・237)。			
23	※谷崎も見た (谷崎『上山草人のこと』)。			
23	夕刊「読売新聞」記事「試写室から」で「バット」を紹介。草人は料理人に扮して出演。			
9・1	新国劇が邦楽座で鶴屋南北原作「三五大切」を上演。その大詰に上山珊瑚が八右衛門の女房お初役で出演 (『新国劇七十年栄光の記録』)。			
10	※犬養健の「女優」によれば、恐らくこの時、省線電車内で犬養健が珊瑚と乗り合わせる。珊瑚は暑さ負けて体調悪く、薬瓶を膝に置き、声が囁れていたが、「遊んでいられる身分ではない、草人の映画もつい観ない」と言った。そして、「今、邦楽座で、髻物のほんの端役のお新造として出ている、余り身体を動かさないで済む役を廻して貰っている」と話した。			
10	「昆虫閣下 (The Honorable Mr. Bugs)」製作。草人は紳士コミカル・ヘビイ役で出演 (上山草人出演映画目録) と Internet Movie Database)。			
10	「映画時代」に牛原虚彦「草人氏と私」掲載。草人・浦路からの長い手紙の引用を含む。			
10	「追放の女 (Driven From Home)」製作。草人は中国紳商役で出演 (上山草人出演映画目録) と Internet Movie Database)。			
11	「珍婚世界漫遊記 (All Aboard)」製作。草人はアラビアの酋長役で出演 (上山草人出演映画目録) と Internet Movie Database)。			
12	犬養健は新宿駅で珊瑚と邂逅。珊瑚は声が囁れていて、「扁桃腺がなかなか治らない。しかし体のせいだけでなく、自分は、女優としてはこなせる役柄が狭いため、少しでも老けるともう駄目なのだ」と言った (犬養健「女優」)。			
冬の初め				



11	<p>この時、引退を余儀なくされた。草人も例外ではなかった。「ハイ・ハット」誌に草人評掲載。《草人とポオル・レニの前に脱帽しろ。ロンチヤニイ、バンクロフト、ヤニングス彼等世界三大性格者も比の草人の怪奇劇の探偵の役で草人の演じた名技を見た上自分達の桂冠を見直して見よ(上山草人『素顔のハリウッド』所収)。</p>
11	<p>「改造」に谷崎「饒舌録」掲載。上山草人にも言及。</p>
11	<p>「紅燈街 (The Crimson City)」製作。草人は中国人の富豪 Sing Yoy 役で出演(「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database)。</p>
12・1	<p>新宿武蔵野館・浅草帝国館で草人出演アメリカ映画『マンダレイへの道』封切り(「日本映画作品大鑑」『キネマ旬報』277・283)。</p>
・1	<p>※谷崎も見た(谷崎「上山草人のこと」)。</p>
・26	<p>「読売新聞」記事「映画だより」。「アメリカで「異邦人の王」と呼ばれている上山草人は、最近、映画「捕獲された船」【幽霊船 (Haunted Ship)】の誤り】を完成した。</p>
<p>夕刊「読売新聞」記事によれば、ユナイテッド・アーティスツ社制作、アルフレッド・ラボック監督の映画「悪魔の踊り子」に草人が出演。その推薦で、山川浦路もチベット女役で数年ぶりに出演することになった。</p>	
◆昭和三年◆ (1928) 四十五歳	<p>★この年、パラマウント撮影所の「父と子 (Sins of the Fathers)」のセットで、主演の Emil Jannings、Ruth Chatterton、監督の Ludwig Berger と草人・浦路・大阪毎日新聞」記者大野木で撮った記念写真が、『素顔のハリウッド』に掲載されている。</p>
<p>★この年か？養家の冷たい仕打ちに堪えかねた路子は、十七歳の頃 (See)、家を出、某製紙工場の女工となり、そこで左翼思想の洗礼を受けた (S6・7・9 「大阪朝日新聞」記事)。</p>	
<p>※天城診療所に、Y. Nagase 1928, No. 2. と書かれた草人の肖像画がある(細江の「谷崎研究雑録」「甲南国文」45号に写真がある)が、これは永瀬義郎の木版画「トルコ帽をかぶる男」で、昭和四年四、五月の春陽会展に出品されたものである。一見木炭画のように見えるが、永瀬照子夫人によれば、この頃の永瀬の作品には、版画で刷った後、手彩で輪郭をほかし、柔らかな感じに仕上げたものがあるということ、これもその一例と見られる。永瀬義郎の著書『放浪貴族』</p>	
<p>などによれば、アメリカで草人の世話になった随筆家・内田誠の依頼で、釣り好きの草人が獲った魚を両手にぶら下げている木版の肖像「ある日の草人」を作り、「トルコ帽をかぶる男」と共に昭和四年四、五月の春陽会展に出品し、春陽会賞を受賞した。その後、「ある日の草人」は、長らく行方不明になっていたが、平成五年、版画家・長谷川潔旧蔵の一枚がフランスで発見され、四月六日付けの「朝日新聞」などで大きく報道された。また、永瀬には、他に「支那人に扮せる草人」という木版画もあり、昭和四年一、二月の日本創作版画協会展に出品している。「トルコ帽をかぶる男」は、恐らく内田誠の依頼によって、「ある日の草人」「支那人に扮せる草人」と同じ時に作られたものと思われる。</p>	
<p>※この年の雑誌「蜂雀」に内田誠の「上山草人及び撮影場付近」が掲載されたらしいが、未見。</p>	
<p>草人は「魔の家 (Something Always Happens)」のチベット人 Chang-Tzo 役と「出かけたジョニー (Chinatown Charlie)」の中国の紳商役に出演して、この月制作(「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database)。</p>	
<p>※「素顔のハリウッド」に引く「パサディナ・ポスト」紙は、「魔の家」で脅迫役を演じた草人を、「この種のタイプに於いては映画史上に於いて最大の性格俳優」と評している。</p>	
<p>「読売新聞」記事「映画だより」。全関東映画研究会は、14日午後6時から、朝日講堂で「上山草人の夕べ」を開催。講演の他、「支那の鸚鵡」を徳川夢声の説明で鑑賞。</p>	
<p>「東京朝日新聞」に牛原虚彦「上山草人氏と『支那の鸚鵡』」掲載。ハリウッド・フィルモグラフィ、ロサンゼルス・イヴニング・エクスプレス、デイリー・メールの草人に対する賞賛の記事を紹介している。末尾に(明夜本社講堂にて試写)とある。</p>	
<p>東京朝日新聞社内全関東映画研究会主催で「上山草人の夕べ」が催された。これ以前に草人を声援するために、草人会が作られた(「東京朝日新聞」S3・3・11)。</p>	
<p>※草人会は、牛原虚彦が組織した(「工藤美代子『聖林のモンゴル王子』」)。</p>	
<p>浅草帝国館・新宿武蔵野館で上山草人出演のアメリカ映画「支那の鸚鵡」封切り(「日本映画作品大鑑」『キネマ旬報』277・286)。</p>	
<p>※谷崎「上山草人のこと」に言及あり。</p>	
<p>※谷崎は、徳川夢声との対談「問答有用」で、草人の「支那の鸚鵡」のチャン探</p>	

- 偵は名演技だった、と発言している。
- ※「読売新聞」S5・8・30 森岩雄「ロンチャニーとグロテスク」によれば、「支那の鸚鵡」では、タイトルで草人を「日本のロン・チャニー」と謳った。
- 夜、草人の映画「支那の鸚鵡」への出演を喜んで、谷崎らの発起により、美津濃運動具店で「草人を偲ぶ会」が行われる。出席者は、和氣律次郎・植原茂二他20人。谷崎も草人の思い出を語り、「支那の鸚鵡」の試写を観て散会（「サンデー毎日」S3・2・12特集「草人を偲ぶ」）。
- 「中央公論」に上山草人「聖林美人礼讃」掲載。
- 「デンバー・ニュース」紙の「外鬼」評に《彼はバントマイムの巨匠であり、彼の顔の表情は全くその性格を表現する》と出る（上山草人「素顔のハリウッド」）。
- 草人と羅府日米社の小松良基が中心となって、ロサンゼルス西本願寺ホールで、「坪内博士記念演劇博物館設立寄附」と銘打って、トルストイ作・島村抱月訳「復活」と谷崎作「愛なき人々」を上演。浦路がカチューシャを演じた以外はアマチュアで、草人は舞台監督・演出に当たった。2月18日付け羅府日米社記事によれば、利益金29ドルにジョージ桑原【映画俳優】と草人の寄付金を加えて千四百円を坪内逍遙に送金した（「演劇博物館五十年」・2/12「読売新聞」記事）。
- ※草人「お世話になるばかり（下）」にも言及あり。
- 「サンデー毎日」で特集「草人を偲ぶ」。谷崎の「浦路夫人の内助（談）」の他、夏川静江ら十五が寄稿。
- 「女性」に森岩雄の「THIS IS SOJIN」掲載。
- 「ロレンス・テレグラム」紙に草人評掲載。《彼の動きは悉く注目すべきだ。彼の表情は悉く研究に値する。私はこれ迄こんなに知的な演技を見たことがない。彼は如何なる雨の如き讃辞以上の価値がある。彼は如何にも瘦せぎすの弁髪の人らしく見える事が多い。上記の映畫で彼は死の眞珠を探す中国人の探偵として四つの異なった性格表現をする》（上山草人「素顔のハリウッド」所収）。
- 草人は「潮に乗って（Out with the Tide）」の上海の任侠酒場の主人 Chee Chee 役と「鷹の巣（The Hawk's Nest）」の中国人役に出演し、この月製作（「上山草人出演映画目録」とInternet Movie Database）。
- ※「素顔のハリウッド」に引用されている「ヘラルド・ワシントン」紙によれば、「鷹の巣」では暗黒街の親分を演じた。
- 草人が日本映画会のために千ドルを寄付。この日、草人会宛に届く（3・11「東京朝日新聞」）。
- 「読売新聞」記事「映画だより」。草人は、今度の映画「魔街上海」で、得意の中国人に扮している。
- 草人会で上山草人出演の「悪魔の踊子」を見ながら、贈られた千ドルの使い道を決める（3・11「東京朝日新聞」）。
- 「読売新聞」記事「映画だより」。草人会の牛原虚彦・近藤経一・田中栄三・六車修が相談し、草人から贈られた千ドルで、ハリウッドに適当な人材を推薦派遣することに決定。
- 慶応大学野球部の第三回渡米。成績は24勝15敗1分（池井優「白球太平洋を渡る日米野球交流史」の「日米野球交流史年表」）
- ※「在外日本人珍談奇行座談会」での草人の発言によれば、慶応野球チームが渡米した際にも案内した。
- 市村羽左衛門夫妻がアメリカへ出発。9月下旬帰国（「松竹七十年史」）。
- ※松居松翁の「我歌舞伎の永遠性」（S5/2「演芸画報」）によれば、草人が諸処の撮影所に案内し、グリタ・ニッスンに紹介したりした。
- ※草人「素顔のハリウッド」に、ファーストナショナル撮影所で撮った羽左衛門夫妻・草人夫妻らの記念写真が載っている。
- ※「帝劇の五十年」P97の羽左衛門と草人の写真には、「昭和三年四月ロサンゼルスにて」とある。
- 「パサデイナ・ポスト」紙に草人評掲載。《著名なる東洋人性格俳優草人は「魔の家」に於いて脅迫役を演ずる。彼はこの種のタイプに於いては映畫史上に於いて最大の性格俳優であらう。彼は全物語を通じてそこに蔭を寄せる陰悪な風気を醸し上げ此の怪奇劇により物凄い背景を作る》（上山草人「素顔のハリウッド」所収）。
- 浅草公園劇場で伊沢蘭者が「マダムX」を上演した際、蘭者は明石潮に、「アメリカへ一緒に行かない？草人先生はきつと抱き締めて泣いて嬉しがって下さるに相違ないわ」と言った（明石潮「研究生時代」）【しかし蘭者は同年6月8日に急死】。
- 「読売新聞」記事。草人会の六車修・森岩雄・牛原虚彦・近藤経一・田村幸彦・林千歳が相談し、松竹浦田の撮影技師・三浦光男を推薦。渡米は6月上旬、滞米約三ヶ月の予定。三浦氏は大正八年国活人所以来のカメラマン。
- 「世界に告ぐ（Telling the World）」製作。草人は中国の將軍役で出演（「上山草人

下旬

出演映画目録』と Internet Movie Database)。陸軍技師桑野球作がロサンゼルスに立ち寄った際、上山草人夫妻は、竹三郎の問題解決を依頼した(北川寿雄「子の愛に悩む上山草人」)。

松竹蒲田の三浦光男技師が米国映画界見学のため出発。十月帰国(4/12「読売新聞」記事・「松竹七十年史」)。

※Japanese Movie Databaseによれば、三浦光男は、1925〜56年までの間に、1955年「夫婦善哉」、1956年「猫と庄造と二人のをんな」など、松竹・日活・東宝などで二本の映画の撮影に携わっている。

「中央公論」に犬養健「女優」掲載。上山珊瑚が毬子、草人が白川晴彦、浦路が国井奈美子の名で登場する私小説。

7初め  
これ以前、たまたまロサンゼルスを訪れた笹森順造に、草人が竹三郎の養育を依頼し、笹森博士が警視庁人事相談課長小林重太郎立ち会いのもと、相当な養育金と引き換えに芳賀三蔵から親権を得て、当時、大井小学校五年生だった竹三郎を、青森県弘前市に自らが経営する私学校東奥義塾に連れ帰った(北川寿雄「子の愛に悩む上山草人」)。

8  
※笹森順造(M19(1886)〜S51(1976))は弘前市生まれ。早稲田大学政治経済科を卒業。M45渡米。米国デンバー大学大学院を卒業。米国デンバー新報主筆、米国南加中央日本人会書記長などを務めた後、大正十一年から約十八年間、東奥義塾塾長を務めた【草人とは、早稲田で知り合ったか、草人の渡米後、アメリカで知り合ったかであろう】。

「海のロマンス(The Rescue)」製作。草人は海賊 Danan 役で出演(「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database)。

※「素顔のハリウッド」に、サンタ・クルーズ島での「レスキュー」ロケーションの際の記念写真が掲載されている。

※この時か? 「在外日本人珍談奇行座談会」での草人の発言によれば、海賊の頭になって無人島へ1ヶ月半行っていた留守中にハリウッドを訪ねた松本学【内務官僚。昭和三年一月に鹿児島県知事を休職になり、外遊したか?】が、記念撮影の際、写真師からペンキ屋の格好をするように求められ、激怒して帰るという事件があった。

竹三郎は東奥義塾を逃げ出した(北川寿雄「子の愛に悩む上山草人」)。

竹三郎は東奥義塾に連れ戻された(北川寿雄「子の愛に悩む上山草人」)。

竹三郎は再び東奥義塾を逃げ出した(北川寿雄「子の愛に悩む上山草人」)。

10

「熱帯の狂乱(Tropic Madness)」製作。草人は南洋の魔法医者役で出演(「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database)。

11  
草人は「絶海の暴君(Ships of the Night)」の島の領主 Yui Sen 役と「恐怖の一夜(Seven Footprints to Satan)」のサルタン役に出演し、この月製作(「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database)。

11  
「演芸画報」に安部豊「陣容を新にした築地小劇場 羅府の上山草人氏へ奇す」。陸軍技師桑野球作が帰国。竹三郎を荏原の小学校に転校させ、姉の路子に勉強を見て貰い、荏原の路子の家でも大井の芳賀家の家でも、好きな方に泊まれるようにした(北川寿雄「子の愛に悩む上山草人」)。

12  
「映画時代」に久江京四郎「上山草人以前」。

12  
草人は「明の花瓶(The Ming's Vase)」の中国の探偵役と天然色映画「満氏の恋(Manchu Love)」の中国皇帝の摂政役に出演し、この月製作。(「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database にはなし)。

下旬?

世界旅行中にロサンゼルスに立ち寄った正宗白鳥夫妻をビルトモア・ホテルの入り口で草人らが迎える。白鳥はロサンゼルスに約一ヶ月滞在し、その間、草人が市内各所を案内した。また、和服だった白鳥に洋服を勧め、洋服の着方・カラの付け方まで教えた。草人と浦路が誘って、ファースト・ナショナルの撮影所に案内し、撮影中のコーリン・ムーアに紹介したり、ルブプレストと記念撮影をしたりした。白鳥は、芝居や映画を観に行つて、一等席の切符を買つても悪い席をあてがわれ、黄色人種に対する差別を肌で実感させられた(正宗白鳥「ハリウッド一瞥」【アメリカを見る】・「上山草人歓迎座談会」)。

※昭和三年中か四年になってからか、松竹蒲田の城戸所長がヨーロッパからアメリカを視察(「松竹七十年史」)。

※パラマウント撮影所で、城戸四郎が草人らと撮った記念写真が、上山草人「素顔のハリウッド」に掲載されている。

◆昭和四年◆(1929)四十六歳

★この年か? 路子は一年で製紙工場の女工を辞め、失業苦と病苦と戦いながら、花売りや納豆売り、靴磨きまでする悲境に陥つた(S6・7・9「大阪朝日新聞」記事)。

1  
草人は「支那の奴隷売買者(China Slaver)」に若き探偵・老僕・敵役の一人三役で、「Madame X」に中国の哲学博士の役で出演し、この月製作。「Madame X」は

・1  
・22  
・26



<p>トーカーで、以後、草人の出演作は、すべてトーカーとなった（「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database）。</p> <p>※草人「素顔のハリウッド」に、トリニティ撮影所の「チャイナ・スレーパー」のセットで撮った白鳥夫妻と草人らの記念写真が載っている。</p> <p>谷崎が門脇陽一郎著「お坊ちゃん」万里閣書房に「はしがき」（S.3/12記）を寄せる。上山草人・村田栄子・諸口十九に言及。</p> <p>「映画時代」に近藤経一「上山草人の巻」掲載。</p>	<p>9</p> <p>草人は「彩れる顔 (Painted Faces)」の中国人 Cafe Owner の役と「The Dude Wrangler」の中国人料理人 Wong の役出演。この月製作（「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database）。</p> <p>草人は「Back from Shanghai」に出演（Internet Movie Database）。</p>
<p>1 中旬</p> <p>草人のバックカードで正宗白鳥夫妻をヨセミテに案内する。昨年末に死んだ小山内薫のことが頻りに話題に上った（正宗白鳥「冬のヨセミテ」『アメリカを見る』）。</p> <p>「国民新聞」に記事「上山草人夫妻近く帰朝の噂」掲載。</p>	<p>10以降 か？</p> <p>ニューヨーク株式市場大暴落。世界恐慌始まる。</p> <p>久米正雄が世界旅行の途次、ハリウッドに立ち寄り、草人のバックカードでドライブした（上山草人「素顔のハリウッド」巻末・久米正雄「歌聖草人」）。</p> <p>※草人「素顔のハリウッド」に、フォックス撮影所で撮った久米正雄夫妻・ウォルシュ監督・草人らの記念写真が載っている。</p>
<p>2 ・16</p> <p>「人生の経験 (Careers)」製作。草人はインドシナの琵琶師役で出演（「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database）。</p> <p>「邪悪の夜 (The Unholy Night)」製作。草人は催眠術師 Lee Hung 役で出演（「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database）。</p> <p>浦路の希望により、竹三郎は小学校五年終了と共に東奥義塾に転校した（北川寿雄「子の愛に悩む上山草人」）。</p> <p>雑誌「蜂雀」に草人の写真掲載。</p>	<p>10・24 月末</p> <p>※草人の「ハリウッドで私の歩んだ足跡」④（「東京日日新聞」S.4・12・25）によれば、「黄金の曙」の撮影終了と同時に、R・K・Oから、再度ヴォードヴィルへの出演交渉があったが、脚本が決まっていけないという事なので、はねつけ続けている所へ、久米正雄が来て、続いて松竹からの話が来た。そこで、久米と相談の末、一度帰国し、今度のヴォードヴィルの脚本は日本で仕入れようと決意した。</p>
<p>3</p> <p>草人はR・K・O社に招かれて、ニューヨークの四劇場で Sojin レビュー「草人七変化」を主演して大好評のため、三十五週間続演した（谷崎「上山草人のこと」）【三十五週間は三十五日間の誤りか？】。</p> <p>※草人の「ハリウッドで私の歩んだ足跡」④（「東京日日新聞」S.4・12・25）によれば、このヴォードヴィルは、先ず草人出演の映画シーンを繋ぎ合わせた50メートルぐらいのフィルムを映写し、「Great Oriental Actor Mister Sojin in Person」という字が大きく幕に写ると、中国音楽の伴奏で、草人が「バグダッドの盗賊」のモンゴルの王子の扮装で登場。中国娘とちよっとぬれ模様になって暗転。「海の野獣」のキネオラマ応用の大嵐の中、草人の悪魔笑い、といった具合に、草人が7度早変わりして舞台上に現れるもので、草人はこれを「草人七変化」と自称している。当初は一週間の契約で、ニューヨーク見物のつもりで行っただけだったが、特に子供に大人気で、日延べした。そこへ浦路から、ワーナーの「黄金の曙」の大役が取れたという電報があり、ハリウッドに戻った。</p>	<p>11・12 ・17</p> <p>「読売新聞」記事「映画だより」。大塚オヤマ館で15日より上山草人主演「世界に告ぐ」。</p> <p>「東京朝日新聞」二面に記事「草人が帰る」掲載。松竹座が草人を日本に招き、十二月下旬か一月上旬に帰国。二ヶ月の滞在中に、各地でレビューに出演し、蒲田で上山草人主演の映画を一本撮る予定。森若雄の肝煎りで、16日朝、承諾の電報が上山草人から届いた。草人は単身帰国し、老母・息子・旧友とも再会の予</p>
<p>5 夏</p> <p>草人は「ハリウッドで私の歩んだ足跡」④（「東京日日新聞」S.4・12・25）によれば、このヴォードヴィルは、先ず草人出演の映画シーンを繋ぎ合わせた50メートルぐらいのフィルムを映写し、「Great Oriental Actor Mister Sojin in Person」という字が大きく幕に写ると、中国音楽の伴奏で、草人が「バグダッドの盗賊」のモンゴルの王子の扮装で登場。中国娘とちよっとぬれ模様になって暗転。「海の野獣」のキネオラマ応用の大嵐の中、草人の悪魔笑い、といった具合に、草人が7度早変わりして舞台上に現れるもので、草人はこれを「草人七変化」と自称している。当初は一週間の契約で、ニューヨーク見物のつもりで行っただけだったが、特に子供に大人気で、日延べした。そこへ浦路から、ワーナーの「黄金の曙」の大役が取れたという電報があり、ハリウッドに戻った。</p>	<p>※12・21「読売新聞」掲載の草人の談話でも、「今度急に帰って来たのは、久米正雄に勧められて里心がついたせいだ」と語っている。</p> <p>※川口松太郎「文豪よもやま」（「中央公論」S.40/10）によれば、草人の帰国の切っ掛けとなったのは、「松竹座の舞台に出て見る気はないか」という川口の手紙だった。川口は、当時、大阪松竹座に籍を置いて、初期のミュージカル・ドラマを書いていた。草人は手紙を見ると、久米正雄に「川口という男を知っているか」と尋ね、久米が「信頼するに足る男だ」と保証したので、帰国に踏み切ったと言う。</p>
<p>8</p> <p>草人は「黄金の曙 (Golden Dawn)」のアフリカの笛吹き役と Warner Brothers のオール・スター・ミュージカル映画「ショウ・オブ・ショウ (The Show of Shows)」に出演。この月製作（「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database）。</p>	<p>草人は「彩れる顔 (Painted Faces)」の中国人 Cafe Owner の役と「The Dude Wrangler」の中国人料理人 Wong の役出演。この月製作（「上山草人出演映画目録」と Internet Movie Database）。</p> <p>草人は「Back from Shanghai」に出演（Internet Movie Database）。</p>

定。

※11・17「読売新聞」記事では、12月5日横浜着の船で帰朝。向こうの女優も連れて来る。滞在は僅かに一ヶ月。その間に全国松竹座のレヴェューに出演する。

※「キネマ旬報」S5/1/11・33号によれば、3月下旬帰米予定。

「読売新聞」に久米正雄が帰朝の日、横浜ニューヨークランドで語った「アメリカに於ける演劇・映画など」掲載。久米が草人に日本へ帰ることを勧め、草人もその気になった、と言う。

「読売新聞」「キネマ・ニュース」。松竹座春の番組への草人の出演は1月30日、と出る。

12・4 草人はサンフランシスコから天洋丸に乗船（『東京朝日新聞』12・6）（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。

草人はホノルル着（『東京朝日新聞』12・12七面）

14・10 草人は天洋丸から無電で「朝日新聞」にメッセージを寄せる（『東京朝日新聞』12・15十一面）

15 夕刊「読売新聞」記事。ダグラス・フェアバンクス、メアリー・ピックフォード夫妻は、明16日神戸入港の浅間丸で日本を訪問。4日間のスピード旅行で京阪・京浜の名所を観光する予定。20日午後3時には、横浜から再び浅間丸に乗船し、米国に帰る。その時には、帰国する上山草人と横浜埠頭で握手を交わす劇的シーンが見られるかも知れないので、詳しいファンが殺到するだろう、と出る。

19 「東京朝日新聞」に第五十八回朝日民衆講座「上山草人歓迎講演会」の広告掲載。20日午後6時より朝日新聞講堂にて。久米正雄「ハロー！草人」・上山草人「土産話」の講演と徳川夢声説明による「バグダッドの盗賊」の上映。

19 谷崎が「草人」を——迎へに行く日」執筆。

20 (雨)「大阪朝日新聞」11面に「草人」——迎へに行く日」掲載。

※午前11時半、天洋丸から、郵船横浜支店に、「東京湾口野島沖霧深く入港の見込み立たず」と無電連絡。浅間丸のダグラス・フェアバンクス、メアリー・ピックフォード夫妻と天洋丸の草人は、互いに無電で挨拶を交換した。「草人歓迎講演会」は21日午後1時から延期（『東京朝日新聞』12・21二面）。

※「東京朝日新聞」12・21十一面によれば、20日午後3時45分、天洋丸が港外に着き、草人はランチで浅間丸に乗船、フェアバンクス夫妻との再会を果たした。

午後4時半、浅間丸は出港、草人は上陸。横浜のホテル・ニューヨークランドで青森から出て来た竹三郎（数え年12歳）と路子に再会。午後7時半からホテル・ニ

ューランドで、東京草人会主催の上山草人歓迎会が開かれた。参加者は久米正雄・谷崎・佐藤春夫・吉屋信子・伊庭孝・水谷竹紫らと、松竹の城戸所長・六車修・牛原監督・東栄子・高尾光子・横尾泥海男ら。伊庭孝の歓迎の辞、草人の謝辞があった後、城戸四郎の発声で「草人万歳」を三唱、茶話会に移り、9時過ぎまで歓談を交えた。草人は同夜、子供たちと共にホテル・ニューヨークランドに一泊。

※川口松太郎「文豪よもやま」（『中央公論』S40/10）によれば、ホテル・ニューヨークランドで草人を待っている時に、谷崎は川口に、「草人を帰国させた努力に感謝する」と言い、「君もなかなかやるじゃないか」と褒めた。待ち時間を利用して、佐藤春夫は本牧まで遊びに行ってきたが、頬に白粉が真っ白く残っているのを谷崎が見付けて、慌てて洗面所に連れて行く一幕もあった。

※「読売新聞」12・21記事によれば、擦れ違う草人の天洋丸とダグ夫妻の浅間丸は、横浜港外でびたりと止まり、草人とイギリスの劇作家カーワードがランチに飛び乗り、浅間丸に向かう。草人の日本到着を撮影するために来ていた牛原監督と三浦カメラマンも、後を追って別のランチを走らせた。草人・カーワードの他、草人会の明石潮・伊庭孝らもダグ夫妻の船室を訪ね、甲板で各新聞社の写真班が写真に収めた。草人は再びランチに乗り、そのまま横浜港へ向かった。ホテルでは竹三郎（二三）（岡田）路子（一八）と十一年ぶりに対面。その写真も掲載。その他、草人の談話として、「チャップリンから、明年4月に日本を訪れるから日本のファンによるしくとされた」などの話が出ている。

※「大阪毎日新聞」の「草人帰朝日記」S5・1・7・8によれば、草人はランチで岸壁へ直行し、自動車ホテル・ニューヨークランドへ行くが、出迎えの人たちが棧橋で天洋丸を待っていると聞き、棧橋に戻り、またホテルに戻る。上山草人歓迎会では、松竹蒲田の女優たちに出迎えられる。歓迎会の席上で、谷崎にお土産の猫を渡した。客たちが帰った後、草人の部屋を谷崎・佐藤・久米と根津清太郎・笹沼源之助が訪ね、羽衣町の某という家へ飲み連れで行かれる。

※埠頭は群集でごったがえし、谷崎もなかなか草人に会うことが出来ず、ようやく夜になってから、グランドホテルの一室で再会できた。市村羽左衛門は、とうとう会えないで帰ってしまった。谷崎は東京でも大阪でも彼の歓迎宴に引っぱり出された。吉井勇がその頃「友いつか蒙古王子となりて来ぬわが世ゆゆしき日にもあるかな」という歌を詠んだ（谷崎「上山草人のこと」）。

※「読売新聞」12・22十面「演芸書抜き帳」に、市村羽左衛門が草人を出迎える朝早くから東京駅に来ていて、知合いに会う度に、「僕が二号の所で朝寝をする

という噂は嘘です」と言っ歩いて、と出る。

※吉井勇「鸚鵡杯」(S5/4刊)「生友死友」の「上山草人に戯る」に「友いつか」の歌と「海越えて友かへり来ぬその友は「支那の鸚鵡」のなかに見し友」「草人と云へばほのかに思ひ出づ早稲田の森の鯛のこゑ」があり、上山草人「素顔のハリウッド」巻末に再録されている。

※草人は、ホテル・ニューグランドの一室に落ち着いて、歓迎の友人達に日本何が食いたいかと聞かれた時、鮫鱈鍋と答えた(谷崎「東京をおもふ」)。

※草人は、ホテルに戻ってからも、子供たちと話明かして、殆ど一睡もせず(大阪毎日新聞「S5・1・9」)。

※谷崎は土産のベルシャ猫2匹を受取る(谷崎「猫——マイベツト」)。

※草人「谷崎潤一郎との四十年」によれば、血統証付き入賞のベルシャ猫一匹。谷崎は、草人の土産話を聞いた後で、ヨセミテヤグランドキャニオンの夢を見たと言ふ。

草人は、竹三郎・路子・水谷八重子と一緒に午前10時40分横浜駅発の列車で上京。10時55分東京駅に到着。プラットフォームには松竹楽劇部の女優40余名、吉井勇・桜井忠温大佐・土岐善磨・城戸四郎・市村羽左衛門夫妻・義祖父井口栄治(72歳)のほか、数千名のファンが溢れた。駅を出た草人はまず皇居を遙拝した後、各新聞社を歴訪。帰朝の挨拶をした上、午後1時から始まっていた「歓迎午餐会」で講演した(「東京朝日新聞」12・22二面)。

※「歓迎午餐会」では、最初に成沢計画部長の挨拶、ついで調査部長・土岐善磨の講演「錦を着た草人」、久米正雄の講演「ハロー！草人」があり、伊庭孝・森岩雄・牛原虚彦・水谷八重子ら草人会関係者がステージに並んだ所へ、草人が登壇、50分間講演した。朝日新聞社からの花束贈呈、伊庭孝の発声で「草人万歳」三唱、「バグダッドの盗賊」の上映があり、5時半閉会(「東京朝日新聞」12・22十一面)。

※この後、松竹・日活・「キネマ旬報」の本社を歴訪。帝国ホテルに入る。正宗白鳥夫妻と再会。草人会の人たち・久米正雄夫妻・伊庭孝・田中栄三・益田甫・水谷竹紫らと歓談(「草人帰朝日記」S5・1・9～10)。  
※「読売新聞」12・22四面「片眼鏡」に、「白鳥はアメリカで日本人に会うことを余り好まなかったが、草人にだけは非常な好遇を受けたため、あのむつり屋が大磯から御輿をあげて、横浜の船まで雨の中を出迎えたのは、義理堅い白鳥らしく、面白い」と出る。同紙十面の「演芸往来」に、横浜から東京へ向かう車中

の談話として、「四月にチャップリンが来るまで日本に居て案内をしたいのだが、R・K・Oと契約が出来ているので駄目。浦路も一緒に帰国したが、長くは居られないので、留守番に回った。」最近出たトッキーの「ゴールデン・ドオン(黄金色の曙)」では、アフリカのウィッチ・ドクター(魔法術師)の老人役で、歌も唄った。ただし、口を動かしただけで、歌を唄ったのは別人。などと語る。品川駅から水谷八重子や蒲田の池田義信監督も乗り込み、横浜から同行の牛原監督・益田甫・森岩雄・水谷竹紫らと話が弾む。

※草人「谷崎潤一郎との四十年」によれば、谷崎は、丸の内の朝日講堂を手始めに京都・大阪・神戸の各市公会堂で催された草人の帰朝漫談に、毎回厳冬の舞台に上り、背後の椅子に掛け、最後まで付き添った。

※草人は、この頃、独特の風味を持つ漫談でも人気を博した(工藤美代子「聖林のモンゴル王子」)「草人にはユーモアのセンスがあり、それも谷崎に気に入られた一因であろう。後に草人が、日本映画でコミックな老人役をあまり役とするようになるのも、同じ理由からと思われる」。

帝国ホテルに土井晩翠・松居松翁が訪ねて来て、仙台における歓迎行事の打ち合わせをする。市村羽左衛門が訪ねて来る。羽左衛門は、浦路も帰って来ると思っ、浦路のために和服を一揃い用意してくれていたと言ふ。牛原虚彦と鈴木伝明が訪ねて来る。草人は、川口松太郎・森岩雄・牛原虚彦と松竹座出演レビュウの脚本の打ち合わせをする為、日本橋末広に行く。これが今度帰って来た仕事で、最も大切な用件。帰朝費用はすべて、松竹座出演の報酬でまかなわれる(「草人帰朝日記」S5・1・10、12)。

「東京朝日新聞」に上山草人「ハリウッドで私の歩んだ足跡」連載。その③に、「日本滞在は半年ぐらいの予定だが、その間に留守番の浦路から「大きな役が得られた」という電報が来れば、直ちに渡米する。」とある。  
「東京朝日新聞」に草人の講演「私の土産話」連載。

「東京朝日新聞」七面に草人の講演「私の土産話」(中)掲載。この中で、草人はトッキーになっても、美しくない声やブロックン・イングリッシュの役もあり、現にトッキーの「マダムX」「人生の経験」「黄金の曙」などに出演した、と述べ、まだ希望を持っていた。しかし、結局は日本に戻る事になった(工藤美代子「聖林のモンゴル王子」)。  
※谷崎「上山草人のこと」によれば、草人は十一年もアメリカに居ながら、その

22  
22  
25  
22  
26  
23

- 英語は滑稽至極だった。
- 23 「読売新聞」記事。草人の色紙「十年目変りはてたる銀座かな」を掲載。帝国ホテルでのインタヴューに対して、「昔の銀座の方が懐かしい。グランド・セール(大売り出し)のあの原色をやたらに使ったどぎつい装飾は僕にはとても堪らない。昔の和やかな楚々とした女の姿も、並木の柳と共に失われてしまった。怖いのは日本人の眼だ。鋭すぎる眼で僕を睨み付ける。これも僕が既に日本人の観念から遙かに離れた所にいる証拠じゃないかと思う」と語る。
- ※この談話の最後の部分は、柳田国男『明治大正史相篇』に取り上げられる。草人は色々と御世話になった郵船会社にお礼に行く。夜、国民講堂における「国民新聞」主催の歓迎会に出席。終了後、明石潮の招待で神楽坂で御馳走になる(『草人帰朝日記』S5・1・12)。
- 24 ※24日「国民新聞」記事(草人の講演の概要も掲載されている)によれば、午後6時45分から国民新聞社講堂で「草人の夕べ」開催。満員盛況。長谷川事業部長の開会の辞に引き続き、牛原虚彦が、ダグ・メリーとの会見実現までの苦心を述べ、森岩雄が「上山草人氏を紹介す」で経歴を紹介。7時から8時頃まで草人が講演。明石潮も演壇に引き上げて、ファンに紹介した。8時10分から「バット」を松井翠声の説明で上映。9時50分閉会。
- 24 草人は新橋花月の小山内薫一周年追悼会に出席。夜は赤坂の幸楽で「キネマ旬報」の草人歓迎会に出席(『草人帰朝日記』S5・1・12・「キネマ旬報」S5・1・11・33号)。
- ※「国民新聞」S4・12・24「けふ」欄によると、小山内薫氏一周追悼茶話会は午後一時新橋花月。
- 24 「読売新聞」記事。来春、松竹座系に出演する草人の上演台本を川口松太郎が脱稿。「モンゴール王子」六景。
- ※旗一兵「喜劇人回り舞台」によれば、昭和2年9月、宝塚の「モン・パリ」の頃から、映画館でのアトラクションが流行り出し、松竹は、楽劇部(後の松竹歌劇団)の生徒を使つて、男女レビュを松竹座チェーンで上演した。その構成演出の第一線に居たのが川口松太郎だった。昭和四年七月、エノケンらによるカジノ・フォーリー旗挙げ以後、レビュ式喜劇は全盛時代を迎えていた。
- 25 草人は笹沼源之助に招かれて偕楽園で中華料理を御馳走になる。夕方からは、帝劇の御招待で女優劇を見物。「文芸春秋」の座談会に出席(『草人帰朝日記』S5・1・12)。
- 26 ※「文芸春秋」の座談会は「上山草人歓迎座談会」で、浪花家で行われた(同座談会中の記載による)。
- 草人は「新青年」の座談会【江戸川乱歩・藤原義江との「われらの三人、探偵映画座談会」】に出席。夜は愛宕山からラジオ放送(『草人帰朝日記』S5・1・12)。
- ※「読売新聞」26日「けふの番組」によれば、午後7時25分から「ハリウッド映画生活」と題して放送。
- ※この前後か?乱歩「探偵小説四十年」「上山草人」(ただし昭和5年1月とする)によれば、夜九時か十時頃、草人が突然、乱歩宅を訪ね、「私の生命はミス・テリ映画にあるので、その方面の作家に助言を得たいと思ったが、友人【谷崎か?】に、それなら乱歩の所へ行くと勧められたので、早速、押し掛けて来た。良いミス・テリ台本を書いて欲しい」と言った。乱歩は自分の作は映画向きではない事を話したが、草人は「改めて映画会社の人も交えた相談会を開くから出席するように」と言い、昭和五年春に鎌倉箱根の料亭で相談会が開かれた。久米正雄・近藤経一・北村小松・六車修ら十一人が出席。しかし、乱歩が消極的だったため、話は纏まらなかった【草人は乱歩・藤原義江との探偵映画座談会で、「アメリカで作られる探偵映画の約半数に出演している」と言うように、ハリウッドでは、観客を不安にするエキゾチックで無気味な容姿を武器にしていた。しかし、日本人は、草人にエキゾティシズムを感じない為、日本映画界では、スターとなることは出来なかった】。
- 27 夜、東京会館で上山草人歓迎会に出席(『草人帰朝日記』S5・1・12)。
- ※「読売新聞」12・28には、栗島すみ子・五月信子・藤原義江夫人・正宗白鳥夫人・久米正雄夫人・原光代らとに囲まれた草人の写真が掲載されている。
- 29 草人は旧文芸協会の同人連と打ち連れて、熱海の双柿舎に坪内逍遙博士を訪れた。草人は演劇博物館のために「肌脱ごう」と言った(『東京朝日新聞』S5/1/16七面)。
- ※「坪内逍遙事典」「上山草人」の項に当日の写真あり。逍遙夫妻・正宗白鳥・河竹繁俊・加藤精一らと。
- 29 「読売新聞」「演芸往来」に、草人の座談が巧みなため、帝国ホテルの草人の部屋には、連日その座談を聞きに知己が押しかけていることと、アメリカの浦路から、入歯止め粉が送られて来たことが出る。
- 30 「国民新聞」に如月敏「上山草人氏に就て」掲載。

◆昭和五年◆（1930）四十七歳

- ・ 30 夜、草人は上野駅から第二の故郷たる青森県弘前市へ向かう。草人会の大山氏が福島まで同車。31日夜帰仙し、歓迎の準備を進めている（S5・1・1「河北新報」）。
- ・ 30 夜、谷崎家で草人に貰ったベルシヤ猫のシルヴァの雌がいなくなる（谷崎「猫——マイペット」）。
- ★この年、アメリカで封切られた「Way for a Sailor」が、草人のハリウッド映画出演の最後となった（Internet Movie Database）。
- ★この年、浦路は Ura Mia とて「芸名」、ハリウッド映画「Wu Li Chang」に Al Wong 役で出演した（Internet Movie Database）。
- ★この年、平八はプロレタリア芸術研究会に参加（「解放のいしずえ」新版）1973年刊）。
- ★森岩雄「私の芸界遍歴」によれば、この年、ロサンゼルスの人々の間で盛んだった少女歌舞伎のスター浜口須磨子が来日、上山草人夫妻の紹介状を持って森岩雄を訪ね、森の紹介で六代目菊五郎の日本俳優学校に入り、藤間勘十郎の指導で、藤間勘須磨の名取りを許され、ロサンゼルスで活躍した。
- 1・1 「キネマ旬報」33号に草人の帰朝についての記事掲載。
- ・ 3 「河北新報」(9)面に記事「上山草人君 四日朝来仙」掲載。
- ・ 3 「河北新報」(7)面に記事「草人君の放送 四日午後六時半」掲載。草人は墓参りのため遠田郡涌谷町に立ち寄る（1・1「河北新報」）。
- ・ 3 午後4時47分草人は仙台駅着。駅頭で、土井晩翠・河合二中校長・二中同窓会員・ファン多数の歓迎を受ける。針久別館で小憩後、実兄上山浩邦方へ一泊（1・4「東京朝日新聞」七面）。
- ※「河北新報」によれば、涌谷から来仙。針久別館に投宿。
- ※名誉市民となる（工藤美代子「聖林のモンゴル王子」谷崎「上山草人のこと」）。
- ・ 4 「河北新報」(5)面に記事「上山草人君 晴れの仙台入り」・「東京朝日新聞」七面に記事「上山草人仙台へ」。
- ・ 4 午前11時より霊屋橋脇対橋楼において二中同窓会主催歓迎会。午後3時と8時から文化キネマにおいて草人会主催の講演と「マンダレーの道」上映会（1・4「河北新報」）。午後6時半から仙台放送局のマイククロホンを通じて東北のファン
- ・ 5 に呼び掛ける。題は未定。内容は、ハリウッドを中心とした映画談（1・3「河北新報」）。
- ※「仙台二高八十年のあゆみ」年表」によれば、4日と5日に上山草人来校歓迎会が催された。
- ・ 5 「河北新報」(5)面に記事「ふるさとに夢を結んだ上山草人君 あらしのような群集に取り囲まれて仙台入り」。「草人君のはなし」として、「仙台には殆ど二十年ぶり。土井晩翠先生には昔、随分お世話になった。先生の『天地有情』を愛読し、俳優になったのもその感化。近代劇協会を率いて帰仙した時は、花柳三葉界と学校方面の後援を受けた。一力先生（故・河北新報社長）には随分と御指導を受けました。」と出ている。
- ・ 5 午後1時より西公園市公会堂において仙台市・新聞社・二中同窓会・草人会等主催の歓迎講演と映画の会。挨拶・土井晩翠、歓迎の辞・仙台市長・山口龍之助（代読）、草人について・松居松翁、ハリウッドにおける私の足跡・上山草人、記念品贈呈、映画「マンダレーの道」。午後3時より遠田義会の歓迎会、午後5時より宮古川で草人会主催晩餐会。午後10時30分発の列車で帰京（1・4、5、6「河北新報」）。
- ・ 6 「河北新報」に記事「上山草人君昨夜帰京 公会堂の講演に溢るる会衆」掲載。
- ・ 7 「大阪毎日新聞」に「草人帰朝日記」が連載される。
- ・ 8 午前10時45分、草人が大阪駅に着き、ファンの大歓迎を受け、「大阪毎日新聞」本社を訪れる。午後1時から松竹座で挨拶（「大阪毎日新聞」1・9）。
- ・ 8 ※谷崎は、午後6時半から、松竹座が主催して大阪ホテルで開かれた上山草人歓迎宴に出席（「大阪朝日新聞」1・9に谷崎・草人写真入り記事）。
- ※谷崎「上山草人のこと」によれば、松竹座の前に「上山草人を迎ふ白井松次郎谷崎潤一郎」という大きな立札が出ていた。
- ・ 8 嶋中雄作宛谷崎書簡、昨年暮から家庭にゴタゴタが起きた。離婚するかもしれない。佐藤春夫にもまだ話していない。草人の方が済み次第上京（水上勉「谷崎先生の書簡」）。
- ・ 10 午後六時半から大阪中央公会堂で「大阪毎日新聞」主催上山草人歓迎講演と映画の会がある。その後、谷崎は、大阪で上山草人と夜更けまで飲む（谷崎「猫——マイペット」）。
- ※谷崎は、草人・久米正雄と大阪辺りで方々飲み歩いた（谷崎「久米君の死の前

11	京都で「大阪毎日新聞」主催上山草人歓迎講演と映画の会がある(「大阪毎日新聞」1・9)。	2	「演芸画報」に松居松翁の「我歌舞伎の永遠性」。後半は草人の講演の再録らしい。ハリウッドで感服した俳優はジョン・バリモアぐらい。米国に渡ってから却って歌舞伎が偉大な芸術であることを深く感じた。自分の成功も、歌舞伎の技巧を取り入れたのが一因。自分も歌舞伎を演じてみたいとさえ思っている、と述べている。
12	神戸で「大阪毎日新聞」主催上山草人歓迎講演と映画の会がある(「大阪毎日新聞」1・9)。	2	「素顔のハリウッドの上梓を祝す 昭和五年二月 城戸四郎」とした寄せ書きに、以下の松竹蒲田関係者が署名している。撮影所事務部長・六車修、監督・牛原虚彦、俳優・鈴木伝明、岡田時彦、井上正夫、高田稔、藤野秀夫、田中絹代、栗島すみ子、八雲恵美子、高尾光子、筑波雪子、花岡菊子、川田芳子、松井潤子、竜田静枝、及川道子、川崎弘子。年月不明のもう一つの寄せ書きには「御出版の御祝ひに」として松竹下加茂の月形竜之介・阪東寿之助・林長二郎・若月孔雀・千早晶子、東亜京都の里見明、日活大秦の山本嘉一・浅岡信夫・沢田清・広瀬恒美・酒井米子・夏川静江・浜口富士子・入江たか子・梅村蓉子・桜井京子・沢村春子・伏見直江、阪東妻三郎プロダクションの阪東妻三郎・森静子、マキノ御室のマキノ智子・大林梅子・砂田駒子らが署名している(「素顔のハリウッド」所載)。
12	「大阪毎日新聞」の「サンデーセクション マイ・ペット」に谷崎潤一郎「猫(談)」と写真掲載。ペルシャ猫2匹は上山草人の土産、と出る。	5	「読売新聞」記事。草人は、帝キネで映画を撮る前に、蒲田で現代物に出演する事に決まった。原作・監督その他は未定。その後、草人が帝キネで撮る映画は時代物で、原作は鈴木千太郎(泉三郎?)か谷崎潤一郎に依頼し、監督は草人と旧知の長尾史録監督が懇望されている。
14	夜、演劇博物館で、高田保・河竹繁俊・池田大伍・林和・水谷竹紫・浜村米蔵らが集まって、草人の大野外劇を立案(1・16「東京朝日新聞」七面)。	6	新宿松竹座で草人の「モンゴールの王子」上演(「松竹七十年史」)。
15	から大阪松竹座で大阪松竹歌劇団による草人歓迎レビュー「モンゴールの王子」に草人が出演(「松竹七十年史」)谷崎「上山草人のこと」。	9	谷崎は上山草人から貰ったプリウウのベルシャ猫と遊ぶ(谷崎潤一郎「春寒」)。
16	※川口松太郎原作。「バグダッドの盗賊」で使用した衣装を着用し、松竹楽劇部の少女達とからみを見せるといった他愛ないショーだったが、どこも大人り満員だった(王藤美代子「聖林のモンゴル王子」)。	13	名古屋松竹座で草人の「モンゴールの王子」上演(「松竹七十年史」)。
16	※S5/2「映画時代」に川口松太郎作上山草人帰朝紀年興行用台本レビュー七景「モンゴールの王子」掲載。第二・三景に「バグダッドの盗賊」、第五景に「海の野獣」の一場面を再現している。前年夏のR・K・Oでのレビュー「草人七変化」をもとにしたものであろう。	15	「時事新報」に上山草人「日本レビューに新様式の創造を望む」掲載。この年3月24日に挙行される帝都復興祭を機に、「時事新報」が企画した「復興の東京」レビュー脚本募集について、意見を求められて、答えたもの。「過渡時代の日本レビューが、この機会によりモダンな、より新しい新様式の演出を試みて欲しい。幸い帝都復興祭に接する事が出来そうなので、復興レビューをアメリカへの土産話として」と述べている。
16	「東京朝日新聞」七面に記事「草人が大野外劇」掲載。	20	京都松竹座で草人の「モンゴールの王子」上演(「松竹七十年史」)。
27	帝キネ長瀬撮影所を草人が訪問。その際、立花専務との間で、谷崎潤一郎原作・長尾史録監督で草人出演映画を一本撮るという話が、急に纏まった。草人の松竹座チエーンにおける実演は、後5週間で終わるが、その後、5月の再渡米までの暇を利用する(30日「読売新聞」)。	22	「読売新聞」記事「草人の作る「五重塔」。草人が帝キネで撮る映画は幸田露伴の「五重塔」に決定し、監督は長尾史録が任命された(3・1「キネマ旬報」38
30	※葉山三千子(せい子)が、帝キネ長瀬撮影所に入社すること(「キネマ旬報」S5・3・11・359号p.6など)とも関係あるか?		
月末?	岡本梅の谷の谷崎邸に辻潤が訪ねて来る。辻潤の逗留中、谷崎は上機嫌だった。※谷崎は文壇人との交際を嫌い、佐藤春夫・辻潤・武林無想庵・上山草人ぐらいとしか親交はなかった(高木治江「谷崎家の思い出」)。		
2	浅草松竹座で草人の「モンゴールの王子」上演(「松竹七十年史」)。		
2	「中央公論」に上山草人「駝鳥漫談」掲載。		
2	「文芸春秋」に「上山草人歓迎座談会」掲載。草人のほか、正宗白鳥・久米正雄・菊池寛・川口松太郎・佐々木茂索・古川緑波・近藤経一。		

3	3	3	号も同じ。 「中央公論」に上山草人「駝鳥漫談」掲載。
3	3	3	「旅」に上山草人「土産ばなし 故国への旅」掲載。アメリカに居ても腹には日の丸の旗をしかりと巻いて故国の為働いている、と述べている。 「新青年」に江戸川乱歩・上山草人・藤原義江の「われらの三人、探偵映画座談会」掲載。乱歩は「バグダッドの盗賊」以来、草人のファンで、草人の映画はずっと見ていると言い、草人の手の表情を褒めている。草人は、「アメリカで作られる探偵映画の約半数に出演する。今までやった中では「バット」(1925・11)製作「蝙蝠」が気に入っている。」(谷崎潤一郎とは兄弟分。僕のためにいっぺん書いてくれるという通知をくれたが、やめてしまいました。)などと発言。
15	12	4	「読売新聞」記事「草人脚本を久米氏が」。草人が帝キネで撮る映画は、久米正雄が書き下ろすことになった。 明治神宮外苑競技場で、三百ないし五百名の俳優を使って、シエイクスピアの「マクベス」か「リア王」をページェント風に上演。俳優は水谷八重子・夏川静江など(「東京朝日新聞」S5・1・16七面)。 草人歓迎レビュウはすべて終わる(「東京朝日新聞」S5・1・16七面)。 ※草人歓迎レビュウ終了後、松竹は草人を客員俳優に迎え、専属俳優以上の固定給を支払った(和田利政「上山草人の思い出」)。 「新青年」に上山草人「むかうとの違ひ」掲載。のち「素顔のハリウッド」に再録。アメリカでは新聞雑誌が俳優のプライベートシーを尊重することなどを書いている。
4	24	5	竹三郎は中学(東奥義塾)に入学したか？ ※三田照子「ハリウッドの怪優」によれば、草人は帰国3日後に、小学5年生の竹三郎を芳賀家から、当時仮住居としていた大森ホテルの離れへ引き取ったが、竹三郎は一週間は経たないうちに芳賀家に逃げ戻り、すぐに連れ戻されたが、さらに一ヶ月後【昭和五年一月末】にまた芳賀家に逃げ帰ったので、弘前の友人・笹森順造のミッシェンスクールに入れた。そこからも逃げ戻ったが、連れ戻され、次第に馴染むようになった、とする【ただし、東奥義塾には、小学校6年になった昭和4年4月から通学していた可能性が高い】。 落子は荏原郡中延町三〇五石川写真店に弟子入り(S6・7・9「大阪朝日新聞」記事)。
4	16	5	竹三郎は中学(東奥義塾)に入学したか？ ※三田照子「ハリウッドの怪優」によれば、草人は帰国3日後に、小学5年生の竹三郎を芳賀家から、当時仮住居としていた大森ホテルの離れへ引き取ったが、竹三郎は一週間は経たないうちに芳賀家に逃げ戻り、すぐに連れ戻されたが、さらに一ヶ月後【昭和五年一月末】にまた芳賀家に逃げ帰ったので、弘前の友人・笹森順造のミッシェンスクールに入れた。そこからも逃げ戻ったが、連れ戻され、次第に馴染むようになった、とする【ただし、東奥義塾には、小学校6年になった昭和4年4月から通学していた可能性が高い】。 落子は荏原郡中延町三〇五石川写真店に弟子入り(S6・7・9「大阪朝日新聞」記事)。
3	28	5	「読売新聞」「今明日の番組 JOAK」によれば、午後1時から3時半まで日比谷公会堂より中継される「新しき大衆芸術の午後」の番組の7番目に、上山草人の漫談「黙劇華かなりし頃」が予定されている。なお、同番組の3番目に、高田保の漫談「歌劇華かなりし頃」がある。同紙9面記事によれば、草人の漫談は、ハリウッド思出話。以前のアメリカ映画界とスターの寸評と、トーカー出現によるスター興亡の悲喜劇を話す。 松竹が新作映画「愛よ人類と共にあれ」の企画を発表する。監督に島津保次郎が選ばれた事で、牛原虚彦が激怒し、松竹を退社、渡欧。草人とも不和になる(工藤美代子「聖林のモンゴル王子」)。 浪花家での「文芸春秋」座談会「春宵世間話の会」に草人が参加(同座談会中の記載による)。 早朝、早川雪洲が浅間丸で横浜港に到着。上山草人・鈴木伝明が出迎えた(野上英之「聖林の王早川雪洲」)。 「読売新聞」記事「草人映画は牛原監督が作る」。草人が松竹蒲田で作る映画の脚本は、目下、脚本部の村上徳三郎が執筆中。監督は牛原虚彦に決まり、着々準備を進めている。 日本シエイクスピア協会が前日に発足し、第一回シエイクスピア記念祭が演劇博物館で行われ、草人が講師の一人として講演する(「演劇博物館五十年」)。 「中央公論」に上山草人の「劇壇秘話」(後半は4月8日脱稿。前半はハリウッドで執筆)と、翁久允の「早川雪洲と上山草人」掲載。 「文芸春秋」に「春宵世間話の会」掲載。草人は今、撮っているのは蒲田【「愛よ人類と共にあれ」、それに上方で「帝キネ？」番物、と発言している】。 ※帝キネでの撮影の話は、結局、立ち消えになったようで、封切られた形跡はない。 「中央公論」に谷崎「懶惰の説」掲載。上山草人から聞いた話を紹介。 午後6時から日比谷公会堂で「話の劇場」初公演。栗島すみ子・山田耕作・西村楽天・上山草人・沢村宗之助・坂本猿冠者らも後援出演するが、話術の進行中に藤田舞踊団一派のレビュー式舞踊、男女優数十名の実演音楽伴奏、擬音効果を用いているの劇の表現をするのが「話の劇場」の特徴だと言う(5・14「読売新聞」朝刊(二面記事))。 佐藤春夫宛谷崎書簡104、一層遅筆になり、毎日、新聞(「乱菊物語」S5・3・18「朝日新聞」)で疲れる。目下(上山)草人来阪中。

<p>んで、話が尽きないので、「朝日新聞」編集部が心配したと云う(上山草人「お世話になるばかり(下)」)。</p>	<p>署名をしている。 鈴木伝明著『映画王チャップリン』実業之日本社に草人が序文を寄せる。</p>
<p>※この頃、草人が帰国して以来初めて岡本梅の谷の谷崎邸を訪ねて来た。そこへ根津清太郎から、西陣お召しの上下に博多献上の帯・袴を草人へのプレゼントとして届けてきた。その上、夙川の家で庭園で園遊会を催すから二人一緒に、と招待の使者が来た。小出楯重も誘って三人で出掛けた後、女中の一人が、この園遊会を最後に、あの家も人手に渡るのだと言っていた(高木治江「谷崎家の思い出」)【ただし、根津家が夙川の家を売り渡すのは、昭和七年夏の事のようにある】。</p>	<p>7? 9 「読売新聞」記事「島津監督の「巨船」完成」。島津保次郎監督は、「巨船」を完成。すぐに次回作品として、村上徳三郎原作・上山草人主演「愛よ人類と共にあれ」を製作すべく、既に準備中。先ず樺太へ大々的ロケーションを行う手筈になっている。なお草人は、同映画を完成後、今秋、再度渡米の予定。 「読売新聞」記事「草人映画には伝明・時彦出演」。「愛よ人類と共にあれ」は島津監督が目下コンテヌイテイを作っているが、松竹キネマでは、特に鈴木伝明・岡田時彦と蒲田第一線女優軍をも参加させる模様。完成の上は、草人の再渡米に際し、アメリカで真価を問うべく携帯されるが、さらにベルリンの松竹映画世界配給会社を通じて、全欧州にあまねく配給される事に内定している。 ※松竹の大谷社長は、大正9年2月松竹キネマ創設時から、日本映画の海外への輸出を夢見ており、昭和4年、ベルリンで、東和商事の川喜多長政とウーファ(UFA (Universum-Film AG))。当時、ドイツの二大映画会社の一つの大株主スライテン・クロイン男爵と松竹の城戸所長の従弟・野原駒吉とが会談し、資本金50万マルクの松竹映画欧州配給会社を、松竹とクロイン男爵の出資でベルリンに設立していた(「松竹七十年史」)。 ※東和商事は昭和3年10月、川喜多長政・かしこ夫妻が、日本におけるヨーロッパ映画の輸入配給業の先駆けとして設立した。現・東宝東和株式会社。川喜多長政は、日本風俗を珍妙に紹介する映像に憤激して、まっとうな日本映画を世界に紹介しようという情熱をかけていた。川喜多記念映画文化財団の創設者でもある。 「東京朝日新聞」に上山草人「素顔のハリウッド」新刊広告。佐藤春夫・久米正雄ほか、それぞれ「素顔のハリウッド」序文を变形して○○氏曰くとして掲載。谷崎の分は、「口を衝いて出る警句諧謔、諷刺滑稽、これを枕頭に置いて私の家族と同じく愉快な一夜を明かし給へ」。「草人君突然帰米」の記事も出る。 午後1時、草人は横浜からエンプレス・オブ・カナダで再渡米。これはユニバーサル社からモントベル監督で上山草人主演の映画を撮りたいと言ってきたため。9月下旬には蒲田に戻って撮影に入る(「東京朝日新聞」7・15七面)</p>
<p>※この頃か?根津清太郎・妹尾健太郎・草人・小出楯重・鮎子・千代子・松子・重子・信子と一緒に取った写真が有る(野村尚吾「一枚の記念写真」S49/7/9「毎日新聞」夕刊)。S41毎日新聞主催「文豪谷崎潤一郎展」に出品された谷崎と草人との写真もある。 ※昭和4年、根津夫妻は、阪急夙川駅近くの西宮市森貝北蓮毛八四七に500余坪の豪邸を新築。清太郎は、谷崎・久米正雄・上山草人らと盛んに交遊した(S9・12・26「国民新聞」)。 ※年月不明、今東光「毒舌文壇史」によれば、岡本時代、今東光が訪問。猫が十数匹いた。アメリカのロサンジェルスの上草人から贈られたというアメリカ産の獐猛な猫やベルシヤ猫がいた。こないだ上海へ行った時に買って来たという猫の本を見せた。</p>	<p>13 「読売新聞」記事「FOX日本版へ草人出演か」。フォックス社では今度完成したレビュー映画「ハッピーデイズ」に日本版を作ることになったので、マスター・オブ・セレモニー(曲目紹介者)として上山草人を起用する方向で、交渉中。 「読売新聞」「キネマ短信」草人は東京で「ハッピーデイズ」の司会シーンだけを撮影する事になった。21日にも続報。</p>
<p>午前、大森のミナトキー・スタヂオを借りて、「ハッピーデイズ」の草人司会シーンの撮影を終えた(28日「読売新聞」)。 上山草人「素顔のハリウッド」実業之日本社から刊行。谷崎・佐藤春夫・栗島すみ子・夏川静江・水谷八重子・牛原虚彦(各地「草人会」を代表して)の序文付き。編輯・装幀は草人の「著者のことば」によれば、明治製菓の内田誠と松竹蒲田の永富映次郎で、いずれも草人の親友と言う。なお、「著者のことば」末尾には、「昭和五年六月卅日 松竹キネマ蒲田撮影所の食客時代 上山草人」という</p>	<p>15 「東京朝日新聞」7・17七面記事「草人けふ出発」によれば、午前11時発列車で東京駅を出発。横浜のホテル・ニューグランドで小憩。午後3時解纜のエンプレス・オブ・カナダで再渡米。ユニバーサル社の映画「イースト・イズ・ウエスト」に主演のため。</p>
<p>7 「読売新聞」記事「FOX日本版へ草人出演か」。フォックス社では今度完成したレビュー映画「ハッピーデイズ」に日本版を作ることになったので、マスター・オブ・セレモニー(曲目紹介者)として上山草人を起用する方向で、交渉中。 「読売新聞」「キネマ短信」草人は東京で「ハッピーデイズ」の司会シーンだけを撮影する事になった。21日にも続報。</p>	<p>17 午後1時、草人は横浜からエンプレス・オブ・カナダで再渡米。これはユニバーサル社からモントベル監督で上山草人主演の映画を撮りたいと言ってきたため。9月下旬には蒲田に戻って撮影に入る(「東京朝日新聞」7・15七面)</p>



<p>22</p> <p>「読売新聞」記事「撮影した苦の映画に名が見えぬ上山草人」。「東は西」は完成したが、配役の中に草人の名はない。最近蒲田の某氏に寄せた草人の手紙には、</p>	<p>「撮影に間に合わなかったから中止した」とあるのみ。</p> <p>※「読売新聞」S5・9・5記事によれば、撮影開始が急に早まったので間に合わず、ジャン・ハーシヨルトが替わった。</p> <p>※Internet Movie DataBaseによれば、「East Is West」でJean Hersholtが演じた役は、単にManと記載されている。</p> <p>「読売新聞」記事「外映画の先陣」。30日から浅草・新宿の松竹座で草人が司会者をしている「ハッピー・デイズ」封切り。</p> <p>演劇博物館に草人が映画舞台スチールを寄贈、展示される（演劇博物館五十年）。</p> <p>「読売新聞」記事「草人十月に再び帰朝」。草人は「水兵気質」と「バーバリアン」を撮影。来月初旬、帰国する。</p> <p>草人は撮影が終了してロサンゼルスを出発（「読売新聞」9・20）</p> <p>「読売新聞」記事「新用具を土産にして」。草人は、龍田丸で来月5日横浜入港予定。改良された新しいネガ・ポジのフィルムとカメラを持ち帰り、撮影上に新機軸を出すはず。</p> <p>路子は上野桜木町五十辻又一郎方女中に住み込み、そこで脳病を患った末、巢鴨の精神病院に二ヶ月ばかり入院（S6・7・9「大阪朝日新聞」記事）。</p> <p>「読売新聞」に「上山草人から」として、龍田丸【熱田丸となっているが誤りだろう】からの無線電信を紹介。</p> <p>朝、草人は竜田丸で帰国（「東京朝日新聞」10・5二面）。</p> <p>※新聞記者のインタヴューに、来年4月に渡米し、新作映画「愛よ人類と共にあれ」の国際市場開拓に乗り出す予定だと語った。しかし、草人は、結局、このまま日本に永住する事になった（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。</p> <p>※浦路は最終的にアメリカに残ることになる。事実上の離婚。草人が日本で若い女性と新しい生活をしているという噂を聞いたためか。浦路はこれ以降、ハリウッド映画に中国人や韓国人の役で出演した。また「羅府新報」の日曜日の「婦人雑談室」というコラムを2年半に渡って担当した（三田照子『ハリウッドの怪優』）。</p> <p>※「ハリウッドを駈けた怪優」に出演した浦路の友人竹田静（80歳、バサディナ市在住）は、平八が可愛くてアメリカに残ったのだからと言う。</p> <p>※浦路はアメリカに留まり、化粧品販売や映画のエキストラ出演で生計を立てていた。平八と仲が良く、平八の入院期間以外は常に一緒に暮らしていた。平八が</p>
<p>16</p> <p>「羅府新報」に記事「日本語人トキー愈々今秋日本へ」。アメリカの映画会社各社が、上山草人ら日本人を司会者として出演させ、説明させる日本語版トキーを製作したと報ぜられる。吹き替えや字幕が発明される以前、トキーの外国での上映を可能にするために行われた試行錯誤の一つ（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。</p>	<p>9</p> <p>26</p>
<p>10</p> <p>「読売新聞」記事「上山草人は九月中旬帰国」。8月28日サンフランシスコ発、9月14日横浜着の秩父丸で帰国予定。</p>	<p>5</p> <p>10</p>
<p>8</p> <p>「短歌月刊」に土岐善麿の「草人への無電」掲載（のち『やきりん』に収録）。</p> <p>※土岐とは「近代思想」が縁になったか？</p>	<p>10</p> <p>3</p> <p>4</p>
<p>26</p> <p>草人はシアトルから陸路ロサンゼルス着（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。</p> <p>※ロス滞在中に「愛よ人類と共にあれ」のアメリカ・ロケ。アメリカ人の俳優マック・スウェーデンとフリス・マーティンが出演（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。</p>	<p>20</p> <p>10</p>
<p>25</p> <p>上山草人、バンクーバー着。鈴木悦らと旧交を温める（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。</p>	<p>5</p>
<p>20</p> <p>小林倉三郎・佐藤春夫が岡本の谷崎邸に到着。佐藤春夫得意の草人の声色などあり（小林倉三郎『お千代の兄より』）。</p>	<p>9</p>
<p>29</p> <p>夜、草人はフェリーでシアトルへ向かう（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。</p>	<p>10</p>

5	最初の妻千恵と別れたのも、嫁と姑のトラブルの為だった(工藤美代子「聖林のモンゴル王子」)。 「読売新聞」7面に、「十月四日 松竹蒲田撮影所にて 上山草人」として、「これから「愛よ人類と共にあれ」の撮影し、遠からずスクリーンでお目に掛かります。今朝はお出迎えを賜り、厚く御礼申し上げます」という趣旨の読者への帰国挨拶を掲載。同紙10面「草人土産」に、「愛よ人類と共にあれ」の撮影で、鈴木伝明の代役をエキストラの東洋人の中から選んだこと、などを紹介している。	17	慢だとして、草人会は解散されたと同様になった。 牛原虚彦は欧州に旅立った(「読売新聞」S5・12・15夕刊三面記事)。 ※牛原虚彦自身は、「虚彦映画譜50年」で、退社の(原因は約一カ年もかかった松竹創立十周年記念映画「進軍」の出来ばえに対する非難であった)。(渡欧の目的はトオキイの研究であった。)としている。
10	草人は東京放送局から講演「ハリウッド・ニュース」を放送(「文芸年鑑」)。 「読売新聞」記事「草人映画 配役決る」。目下、島津監督が秋田方面へロケーション・ハンティング中のため、まだ撮影開始になっていないが、脚本部で練っていた脚色がようやく完成され、全配役が発表された。鈴木伝明・岡田時彦・八雲恵美子三人が揃って出るといふ蒲田始まって以来の記録。 夕刊「読売新聞」記事「担ぎ出された上山草人」。松竹キネマでは、スターの出演は、27日迄の浅草帝国館における栗島すみ子で打ち切りと宣言していたが、すぐお隣の富士館で、31日から始まる大河内伝次郎・伏見直江・山田五十鈴らの実演「大岡政談」が気になるので、とうとう11月1日から、上山草人に柳さく子・高田稔・川崎弘子・小藤田正一、それに蒲田の脚線美女優十数名を出演させることになった。	12?	落子は巢鴨の精神病院を退院後、ちょうどアメリカから帰朝した父・草人を訪ねて大森町大森ホテルに赴いたが、新旧思想の衝突から生みの父親とも相容れず、再び放浪の旅を続けて行った。上山草人談話によれば、岡田の家を飛び出して来たので、引き取り、神戸の洋服裁縫店に住み込ませようとしたが、その前日に逃げ出してしまった(S6・7・9「大阪朝日新聞」記事)。
14	「東京朝日新聞」十一面上山草人と牛原虚彦の不和が報ぜられる。新作映画「愛よ人類と共にあれ」の監督に、牛原虚彦より下位の島津保次郎が選ばれた事が、牛原氏が蒲田を去る一因となり、草人会の他のメンバーも、草人の態度が傲	12	再び放浪の旅を続けて行った。上山草人談話によれば、岡田の家を飛び出して来たので、引き取り、神戸の洋服裁縫店に住み込ませようとしたが、その前日に逃げ出してしまった(S6・7・9「大阪朝日新聞」記事)。
7	「読売新聞」記事「髪のおさま」。上山草人は今、蒲田撮影所内の自宅に住んでいるが、家具一切は小道具から持ってきたもので、知らない間に持って行かれたり、新規のが運び込まれたりする、と言う。同紙記事「帝国館実演日延べ」によれば、浅草帝国館のレヴウ「七変化美人礼讃草人土産」は9日まで日延べ興行することになった。	31	島津保次郎監督「蒲田ビックパレード」封切り(Japanese Movie Database)。 ※「読売新聞」12・25記事「何が出るか蒲田大行進」によれば、上山草人ら蒲田スターが続々現れる。
11・5	「読売新聞」記事「草人の美人礼讃」。帝国館で実演中のレヴウの写真入り紹介。高田稔が草人を中国美人(川崎弘子)など東洋の女見物に誘い、草人が「やはり日本女性が一番いいすなあ」と言うのが落ち。	◆昭和六年◆(1931)四十八歳	★この年、草人は松竹蒲田に入社(「日本映画俳優全集・男優編」)。 ※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、銀座で飲むにも大船で撮影するにも便利のように、中間ぐらいの場所に家を探すようにと草人が竹三郎に命じ、鶴見【横浜市鶴見町豊岡285】に家を買った。庭などに大変なお金をかけて、凝っていた【ただし、大船への撮影所移転は昭和十一年】。
10	夕刊「読売新聞」「演芸ゴシップ」。帝国館でレヴウウを上演している草人は、浅草が珍しくて、実演の合間に柳さく子を誘って、方々をうろつき回っている。	1	柳田国男「明治大正史世相篇」刊行。その第五章「故郷異郷」四「世間を見る眼」に、「草人が久し振りに日本へ戻った時に、何だか東京人の眼が大変に怖くなっていると聞いたことが、一部文士などの間で問題になったそうだ」と書かれている。
13	「読売新聞」「ラヂオ版」によれば、午後7時25分から9時40分までの番組「ユウモアの夕」に、佐々木邦・田中比佐良・川上三太郎について「素顔の映画人」という題で最後に登場。禁酒法が施行されているアメリカでの、酒を巡る様々なエ		

4・16	春	3・19	2・24	・30	・28	・22	・15	?	・17
「読売新聞」10面。「愛よ人類と共にあれ」は、アメリカとドイツにそれぞれ發送する。	崎研究雑録「甲南国文」45号に写真あり。	「読売新聞」「ラヂオ版」。午後8時35分から9時30分まで、上山草人らによる子供向け番組「古今未曾有物語」。お伽噺を現代風にアレンジし、滑稽化したもの。第一節は、浦島太郎（上山草人）に兎と亀を絡める。第二節は、竜宮城の乙姫に、カチカチ山・猿蟹合戦を絡め、桃太郎と浦島と一緒に鬼退治をして乙姫に求婚する。最後の第三節は、現代の海水浴場で、乙姫の返事が入った玉手箱を開けると、桃太郎も浦島もお爺さんになってしまう。同紙面の「放送人の横顔」によれば、草人は、お爺さんになった浦島は、入れ歯をはずしてやるのだと言う。草人は「怪髯奇魚を釣るの図 辛未春」を描く。天城診療所に現存（細江の「谷崎研究雑録」）	「読売新聞」記事「担ぎ込まれた宝石五十万円」。「愛よ人類と共にあれ」の宝石店の場面を撮るために、五十万円分の本物の宝石を、銀座の宝石店から借りてセットへ並べて撮影したというエピソード。26日の「読売新聞」でも、撮影中の別のエピソードが紹介されている。	谷崎は古川丁末子を伴って、前夜、東京を発ち、朝、岡本に帰宅。しかし、一切の面会客を断る。夜、草人が訪ねてくるが、門前払い（「大阪朝日新聞」S6・1・31記事）。婚約発表直後だったため。	ダグラス・フェアバンクスが、京都ホテルを監督とともに訪れた際、東京から鈴木伝明・上山草人も同行。歓迎晩餐舞踏会が催された（京都ホテル100年ものがたり年表など <a href="http://www.kyotohotel.co.jp/kytr/kyo_05.html">http://www.kyotohotel.co.jp/kytr/kyo_05.html</a> ）。	来日したダグラス・フェアバンクスが、前日から帝国ホテルに泊まり、この日、午後8時から帝国ホテルの舞踏会で踊って人気をさらう。この時、上山草人・水谷八重子ら映画・演劇人五百人余りが出席した。この後、フェアバンクスは上山草人と銀座へ繰り出し、鈴木伝明がフェアバンクスのダミー役を引き受けた（「帝国ホテル百年の歩み」）。	「東京日日新聞」によれば、谷崎は、ダグラス・フェアバンクスの来朝を迎え旁々の上京。	帝国館で上山草人主演松竹映画「愛よ人類と共にあれ」封切り。海外ロケもした鳥津保次郎監督の大作。ストーリーは、無一文になった元大富豪・山口鋼吉（上山草人）が、愛の尊さに目覚めるといふもの。共演は当時の日本のスター岡田時彦・鈴木伝明・田中絹代に、アメリカの Mack Swain, Chris Martin という豪華キャスト（『日本映画俳優全集・男優編』「松竹七十年史」）。	「読売新聞」7面の「愛よ人類と共にあれ」評。原拠は「リア王」。蒲田始まって以来の大作で、今日の日本映画の最高水準を示しているが、刈り込むのを惜しんだために冗漫。それも日本映画界のレベルの低さ、としている。
		6	5・28	・24	・17				
		「読売新聞」記事「帝劇七月の出し物極る 喜多村や上山草人も加入」。	「読売新聞」11面。今日、浅草東京館で、怪談週間として上山草人主演の「恐怖の一夜」「カリガリ博士」などを上映。	「読売新聞」7面。草人は「愛よ人類と共にあれ」の後、帝キネで一本という予定だったが、その話は毀れたので、この9月にひとまずアメリカに帰り、「愛よ人類と共にあれ」はその時携えて行って、大々的に公開すると言う。	※「読売新聞」S6・4・17広告によれば、英題「Be Love with Human Being Eternally」。	美代子「聖林のモンゴル王子」。	※「読売新聞」S6・4・17広告によれば、三浦光男も撮影協力。	※「読売新聞」S6・4・17広告によれば、英題「Be Love with Human Being Eternally」。	落子は、製糸工場時代に思想上の指導者だった黒瀬道（28）と再会し、月末頃から大阪プロキノ事務所働いていた（S6・7・9「大阪朝日新聞」記事）。
		7・1	7・1						
		「読売新聞」記事「真夜中の酒場」岸田国士作「家庭裁判」瀬戸英一作「盃蘭盆の夜の殺人」村松春水作「唐人お吉」上演。草人が、喜多村緑郎・花柳章太郎・水谷八重子らと共演。	「読売新聞」記事「真夜中の酒場」の舞台写真あり。						
		25							
		※水谷八重子「女優一代」によれば、草人は「真夜中の酒場」の老船長を演じた							

が、なかなかセリフが覚えられず、当人も周囲も随分困った。

※草人「暑い話涼しい話」によれば、「唐人お吉」ではハルリス役。突然不用意の間に引っぱり出され、自分では試験されてるつもりで居る、と言う。

※昭和三年十一月に十一谷義三郎が「唐人お吉」を発表してから、お吉ブームが起こり、真山青果・田中総一郎・浜村米蔵・山本有三らが、相次いで戯曲化した。

・9 「大阪朝日新聞」5面記事。上山草人の娘で岡田家の養女になっていた路子が、プロレタリア運動に入り、大阪「戦旗」の黒瀬某と同棲し、レボ係を務め、警察に逮捕され、草人の娘と判明。路子および草人の談話掲載。

・10 「読売新聞」記事「帝劇の新作四種」。「真夜中の酒場」の草人は、変な訛が気になるが、出来は悪くない。「唐人お吉」の草人のハルリスも好い、と好意的。

・21 「読売新聞」記事「十五年ぶりで帝劇へ出た草人(一)」。「九月に出演することになっていたのが、急に早まった。「真夜中の酒場」では、ピストルで撃たれてから、書き抜き18枚からのせりふがあつて、難役。

8 「演芸画報」に草人「暑い話涼しい話」。今後は舞台と映画の両方に出たい。江戸川乱歩の探偵劇などをやってみたい。沢田正二郎・上山珊瑚・伊沢蘭奢が死んだのが心残り【実際には、草人は舞台俳優として活躍することは出来なかった】。

10・8 「読売新聞」記事「草人が京都で初撮影 唐人お吉でハルリスになる」。

11・4 草人は松竹キネマ京都下加茂撮影所の衣笠組「唐人お吉」ロケーションのため鳥羽に滞在(秦豊吉「偉人粹人」)。

※「朝日新聞」記者・宮瀬規矩の「昭和初年頃の志摩三港(鳥羽、渡鹿野、浜島)」(岩田準一「志摩のはしりかね」所収)によれば、宮瀬が草人を渡鹿野に案内し、ここに草人の別荘を建てる話も、宮瀬の仲介でまとまった。

※「大阪朝日新聞」S6・12・15記事によれば、草人はこの「鳥羽滞在中、伝説に富む志摩めぐりをやっているうち、ただ一つ現代の交通文化から遮断された女護ヶ島に不思議なエロの取引をやっていること、人情風俗においてどこか地へ行くつても見られぬ純朴さを発見したので、に愛着を覚え一泊したところ、これを知った村人と僕がこゝに別荘をたてなければならぬほどの深い交渉をもつに至った」と言う【渡鹿野島は、近世、江戸、大坂航路が盛んになるにつれ、廻船の風待港としてにぎわい、「はしりがね」と呼ばれる遊女が多数いた事で知られる】。

・6 時事新報社「たばこ」に上山草人「煙草と映画」。

・8 平凡社版『江戸川乱歩全集』第六巻「批評集」に上山草人の「蜘蛛男」について

て」掲載。草人の帰朝第一回作品に「蜘蛛男」が候補に選ばれたが、内容が深刻すぎて中止になった事を残念に思い、何時か必ず乱歩原作映画に出演したいと述べている【グロテスクな役柄で、ハリウッド時代の成功を取り戻したかったのである】。

・23 夕刊「読売新聞」記事「上山草人腰を据える」。12月には松江市を振り出しに全国各地に漫談行脚を試みる。女優四五人を同伴して、松竹の映画主題歌を歌いながら回る。草人は「アメリカへ帰ってもこの不景気【1936年から33年にかけて発生した世界的な恐慌】では見込みもなし、向こうの会社から呼びに来ない限り、自分日本に腰を据える」と言っている。

・30 宮瀬渚花(規矩)宛伊良子清白書簡(山路峯男「伊良子清白研究」)。上山草人と会ったことが報じられている。

・3 雑誌「白鳥」に伊良子清白は「草人をおもふ」と題して、「バグダットの盗賊支那の鸚鵡の世界的名優が来た来た村に」「馬上ゆたかに手綱かいくくり草人のハリスが通る床屋の前を」など六首を掲載。

・13 草人は、松江市を振り出しに、山陰中国方面で、渡瀧兵慰問金募集の漫談旅行をした(S6・12・15「大阪朝日新聞」(十一)面)【9月18日から満州事変が始まっていたためである】。

午後、草人が、三重県志摩郡的矢湾の孤島渡鹿野島を再訪。草人に村から寄贈された大日山頂上の別荘の門に、谷崎が揮毫した「草人漁荘」という竹の門標を掲げ、竹内区長やその他の有力者たちと記念撮影をした。ただし、谷崎はこの日行った訳ではない(秦豊吉「偉人粹人」「上山草人」ただし、昭和五年と誤る)。

・15 「大阪朝日新聞」(十一)面に谷崎の揮毫した「草人漁荘」の写真と記事「女六分の一孤島に草人が猟奇別荘 情趣豊かな女護ヶ島を東洋のモナコにする意気込み」掲載。草人はこの別荘に「友人谷崎潤一郎氏をはじめ文壇、画壇、劇団のあらゆる友人を誘つて猟奇的なこの島でなければ味わわぬ変わった情趣をもつエロ探検と波静かな絵画美に富んだ島の風景を満喫させようと計画している。僕の好きな魚釣りや海水浴、山遊びなど何でも出来るので、僕は俳優生活を打切つたらここに養魚場、競馬場、牡蛎、真珠の養殖などをやるほか、娯楽機関を出来るだけつくつて、東洋のモナコともいふべきパラダイスをこゝに実現させたい」と言う

【細江の「谷崎研究雑録」に記事全文の翻刻あり】。

※宮瀬規矩「昭和初年頃の志摩三港(鳥羽、渡鹿野、浜島)」によれば、昭和七年二三月頃には別荘建築に取りかかる筈だった。

※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、「草人漁荘」は、「あさしお」という旅館が管理していて、今でもある筈。

※縦85センチ・横9センチ・高さ4センチの孟宗竹に暗緑色のペンキで「草人漁荘 潤一郎題」と揮毫し、赤いペンキで捺印したものが、地元の上田那菜子氏の手元に保管されている。草人は昭和6年11月に「唐人お吉」のロケーションで鳥羽を訪れた時、最初に渡鹿野へ来たのが縁でここに別荘を持つ事を望んだと言

う。ただし、実際には渡鹿野日和山（大日山）に門と亭だけが建ち、別荘は建築予定のままになってしまったと言う。朝潮ホテルは草人の命名とされる。前海寺に建つ渡鹿野観光開発顕彰之碑には、草人を筆頭に谷崎の名も留められている。渡鹿野島には《谷崎が不倫旅行に来た》という話が伝えられているという（斎藤平「谷崎潤一郎の足跡」H8/1/31「皇學館大學国文学会会報」二十四号）。

※上田那菜子氏所蔵の短冊裏面に《昭和六年拾貳月谷崎潤一郎氏より受領》とある（「解釈」H10/3半田美永「谷崎潤一郎の「志州」―草人別荘のことなど―）【ただし、草人に託して贈った可能性もあり、昭和6年12月に谷崎が訪問したかどうかは速断できない】。

・18  
松竹下加茂作品「唐人お吉」封切り。衣笠貞之助監督。原作村松春水。出演は高田浩吉・飯塚敏子・上山草人・中川芳江・坪井哲・堀正夫。主演・飯塚敏子の艶麗さで評判となる（『松竹七十年史』）【ハリス役に起用したのは、草人の異国的雰囲気を活かすためであろう】。

・22  
『読売新聞』記事「新映画評 処女時代・唐人お吉」。期待点には達しているが、監督で見せている作品で、上山草人には不満が残る、とする。

◆昭和七年◆（1932）四十九歳

3 初旬  
草人が3ヶ月前に結婚した直子夫人を連れて、谷崎を訪ねて来る。その日、谷崎宅には、丁未子の他に根津松子もいた（三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」S33/1「主婦の友」）。

※草人が大森ホテルに宿泊している時に、バーへ谷崎と一緒に飲みに行つて、その女中であつた当時十八歳ぐらいの直子さんと知り合い、結婚した（1997・2・25三田照子さんの細江宛私信）。

※直子さんは入籍しなかった（1997/9/21三田照子さんの電話での話）。

※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、直子さんは2世の歯医者と婚約していたのを、草人が奪ったと言う。直子さんは大正三年六月生まれ。後には直子が

4

箒を持つて草人を追いかけて回したり、土下座させて謝らせたりしていた。 ※この頃、谷崎は松子に愛を告白し、丁未子とは離婚する方向に進みつつあつた。

根津清太郎は、妻・松子の妹・信子に、神戸区北長狭通一の二四生田神社傍に「ハイウエー」という高級グリルを経営させた。ただし、年内に売却（S9・12・26「国民新聞」）。

※信子と恋愛関係にあつた大東正信が開店当時の経営者で、「細雪」の板倉のモデル、その兄八郎が日本郵船の横浜Ⅱロサンジェルズ定期行路の豪華客船「浅間丸」のコックだつた。谷崎は上山草人や小出楯重【S6/2に死んでいる筈】・花柳草太郎らをつれて食べに来たが、金は払わなかつた。昭和8年4月に大東正信は中耳炎で死亡した（野口武彦『谷崎潤一郎論拾遺―「細雪」成立裏面史の一駒』S49/2「文学界」）。

草人は、中学3年生になつたばかりの竹三郎を鶴見の家に呼び戻す（三田照子『ハリウッドの怪優』）。

※竹三郎は半年間、鶴見の家に居た。その間、谷崎が鶴見の草人宅に泊まつた際には、竹三郎によく口述筆記をさせた。谷崎はちつとも威張らない人で、竹三郎をよく褒めてくれたと言う。竹三郎は直子と年が近かつた為、草人の嫉妬を買ひ、家を出たと言う（1997・2・25、3・22三田照子さんの細江宛私信）。

この春  
草人は裙子（22歳）の所へ会いに行く。裙子は鶴見の草人のもとに家出する。が、二年後、大森の養母夏原マサの元へ戻る（三田照子『ハリウッドの怪優』）。

『読売新聞』7面記事。日大芸術科では4月から、砧村の日本写真化学研究所と、小石川の日本教育映画製作所を借り受け、トキー撮影・現像の実習を行う計画で、その小手調べに、本年卒業生・一松素直君の作を、上山草人らの諸講師が指導し、来月から撮影を開始することになった。

『日曜報知』98号チャップリン特集号に草人「心の休息を求めて 日本へ来る彼の期待に背くな」掲載。「バグダッドの盗賊」撮影の時、チャップリンが親友のサダキチ・ハートマンをモンゴルの王子役としてダグラス・フェアバンクスに推薦したのに、途中から草人が取って代わつたため、草人とチャップリンとの仲は何となくしつくり行かない所が残つたと回想している。他に徳川夢声・岡田嘉子らが書いている。

『読売新聞』記事「変わった顔触れで」。衣笠貞之助監督が「忠臣蔵」を製作。吉良上野介には上山草人が出演予定。

5	「文芸春秋」に上山草人「チャップリンの心理」掲載。	
10	妹尾健太郎宛谷崎書簡。佐藤春夫と奈良の志賀直哉を訪ね、伊勢志摩の上山草人別荘へ廻りたい、一緒に行きませんか。 ※ただし、別荘はなく、門と亭だけだった筈。この旅行は実現しなかった可能性が高い。	
12	JOBKでは、14日朝、神戸埠頭で、チャップリン到着の実況中継を行う事になり、その臨時アナウンサーを上山草人に依頼することに決定。ラジオ嫌いのチャップリンでも、懇意な草人の顔を見たら、挨拶ぐらいいは放送してくれるのではないかと期待している(「読売新聞」5・13)。 ※JOBKが、チャップリンの第一声を草人の通訳でキャビンから中継放送する筈だった(西松五郎「神戸新聞による世相60年」)。 来日するチャップリンを出迎える為に、西下した草人が、汽車の中で葉巻をふかし過ぎて吐血。神戸オリエンタル・ホテルで絶対安静となった為、谷崎が見舞い、直子夫人を電話で呼び寄せる(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)。 ※草人「谷崎潤一郎との四十年」によれば、谷崎がこの時、城戸四郎に送った手紙を小津安二郎が貰い受け、立派に表装して愛蔵していた。 チャップリンが来日。14日「読売新聞」記事では、チャップリンはラジオで肉声を放送する事を断り、草人も、神戸に着いてから急に声が出なくなつたとして断つたため、BKのアナウンサーが実況放送してお茶を濁した。	
13	松竹蒲田作品「撮影所ローマンス・恋愛案内」封切り。原作脚色北村小松・監督五所平之助。出演・田中絹代・上山草人・村瀬幸子・江川宇礼雄・竹内良一・吉川満子(「松竹七十年史」)。	
14	夕刊「読売新聞」記事「全発声の「忠臣蔵」松竹オールスターの総動員」。草人も出演。7月30日にも続報。	
15	「文芸春秋」に上山草人「ジョン・ピーの手紙」掲載。ジョン・ピーは John P. Medbury。アメリカのハースト系新聞の有名なユーモリストで、ハリウッドに住んでいる。実際に送られて来た手紙を訳したもののようである。川端康成は「上山草人」で、これを《軽妙洒脱の才筆で、私も甚だ愛読した》と述べている。確かに面白いが、勿論、才筆なのはメドバリー氏であって、草人ではない。	
16	2	
17	27	
18	9	
19	9	
20	10・6	
21	10・6	
22	9?	
23	8・3	
24	9	
25	9	
26	12・1	
27	27	
28	1	
29	1	
30	1	
31	1	
32	1	
33	1	
34	1	
35	1	
36	1	
37	1	
38	1	
39	1	
40	1	
41	1	
42	1	
43	1	
44	1	
45	1	
46	1	
47	1	
48	1	
49	1	
50	1	
51	1	
52	1	
53	1	
54	1	
55	1	
56	1	
57	1	
58	1	
59	1	
60	1	
61	1	
62	1	
63	1	
64	1	
65	1	
66	1	
67	1	
68	1	
69	1	
70	1	
71	1	
72	1	
73	1	
74	1	
75	1	
76	1	
77	1	
78	1	
79	1	
80	1	
81	1	
82	1	
83	1	
84	1	
85	1	
86	1	
87	1	
88	1	
89	1	
90	1	
91	1	
92	1	
93	1	
94	1	
95	1	
96	1	
97	1	
98	1	
99	1	
100	1	

◆昭和八年◆ (1933) 五十歳

★この年、平八は、南加プロレタリア文化同盟(日本人)及びジョン・リード・クラブに加入。同機関誌「働く人」「プロレタリア芸術」の編集に参加(「解放のいしずえ(新版)」)。

Books Databaseによれば、LOVE IN BLOOM (1935)、COUNTRY GENTLEMEN (1937)、WHAT'S BUZZIN COUSIN? (1943)と3つの本の映画で、Writerの一人になっている。  
谷崎潤一郎は「中央公論」に「青春物語」を連載。「小山内氏とのいきさつ」とに上山草人の「信西」上演への言及有り。  
竹三郎は夏原裾子の家に移り、半年間、夜間高校(?)へ通った(1997・3・22 三田照子さんの細江宛私信)。  
松竹蒲田作品「陸の若人」封切り。監督重宗務。出演・大日方伝・八雲恵美子・上山草人・結城一朗・水久保澄子(「松竹七十年史」)。  
夜、谷崎は草人留守宅に泊(24日妹尾健太郎宛谷崎書簡)。  
※草人「谷崎潤一郎との四十年」によれば、鶴見の家には、山本実彦・嶋中雄作・岡田時彦・花柳章太郎・川口松太郎・岡田嘉子などが谷崎を訪ねて来たと言う。宿代の代わりと称して、谷崎は「草人は鼻の頭にはメシをつけてへをこきながら友をもてなす」「草人は昔の如くかはらねど妻は新し子はいとけなし」などと戯れ歌を短冊に書いた。まともなものも書いたが、戦争とネズミのために、あらかた失われた。  
※元「中央公論」編集長・雨宮庸蔵氏から伺った話では、「草人宅に泊まっている谷崎を訪ねた時、床の間に草人自筆の掛け軸が掛けてあって、そこに草人の巨根の絵が描いてあった」と言う。  
夜、谷崎は草人同伴で帰宅(26日丁未子の妹尾君子宛書簡書簡)。  
衣笠貞之介監督オール・トーキー松竹映画「忠臣蔵」東京劇場で封切り。「松竹キネマ創立以来の大作」「オール松竹顔見世映画」という触れ込みで、松竹のスター俳優と並んで、草人が吉良上野介を演じた。興行的にも大成功(「松竹七十年史」)【吉良役を振られたのは、悪役向きということであろう】。  
※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、この頃は威張っていて、科白を覚えず、セットの裏側に自分の科白を全部書かせたり、自分をアップで取れと監督に指図したりしていたと言う。

1・1	※ジョン・リード（1887～1920）は、ロシア革命を描いた「世界を揺るがした十日間」（1919）で知られる左翼ジャーナリストで、アメリカ共産党の創始者。明治座で新派と水谷八重子の芸術座の合同公演。山本有三「女人哀詞」第一幕から第二幕の終わりまでを初演。お吉を八重子、鶴松を花柳章太郎、お福を村田みね子、伊佐新次郎を喜多村緑郎、ハルリスを早川雪洲、ヒュースケンを上山草人（山本有三全集・「文芸年鑑」昭和9年版）。	11	某プロダクションに絡んで、高木藤吉・田中市平を中心とする「暗桜団」が早川雪洲と上山草人を恐喝し、千円ずつを奪い取るという事件があった（S11・9・7「読売新聞」記事）。
2・1	夕刊「読売新聞」金龍館の広告。2月1日から四本立て。第一は中村吉三作「人？鬼？」上山草人主演。第二は山本有三作田口桜村監督女人哀詞「唐人お吉」早川雪洲・梅村蓉子・上山草人。第三はスチブソン原作早川雪洲訳「ジキル博士とハイド氏」雪洲一人二役。第四は「恋の緋鹿子」お七人形振りで梅村蓉子。	月末より 12月下旬 まで	は余り出入りしなかった（工藤美代子『晩香坡の愛』）。
3	「読売新聞」1・29夕刊「金龍館の二月漸く極る」によれば、「女人哀詞」（唐人お吉）での草人の役はヒュースケン。	12・1	谷崎は、鶴見の草人宅に二十五、六日間滞在して原稿を書く。この時、草人は谷崎をもてなすために、何が食べたいかと尋ね、谷崎が鯨鯨鍋・東北の納豆・仙台の辛味噌のおみおつけ・神茂のスジ【筋蒲鉾】・馬鹿・柱・シヤコを挙げると、それらはすべて草人の好物で、向島の学校【寺島の府立第七中学校、現・都立墨田川高校】へ通う倅【竹三郎】に、帰りに魚河岸に回らせて、買わせたりしている、と答えた（谷崎「東京をおもふ」）。
4	夕刊「読売新聞」金龍館の広告。2月13日から、上山草人・早川雪洲主演。柳川春葉原作「生さぬなか」、坪内逍遙訳シエクスピア原作「ヴェニス商人」、ミス原作「裸一貫の男」。	8	夜、谷崎は、草人・丁未子と大森カニ料理沢田屋の離れ座敷で最後の小宴を張る。丁未子は療養を名目に温泉地に旅立った。谷崎は、草人宅斜楓荘で新年原稿の執筆中。草人のコメントあり。佐藤春夫はコメントを求められたが、先日、谷崎・草人に会ったが、離婚の話は聞いていないと答えた（12・4「都新聞」）。
5・?	竹三郎は府立第七中学校四年に編入された（1906・3・22三田照子さんの細江宛私信）。	26	※途中から松子が上京して草人宅に四五日一緒に泊まり、一旦、二人一緒に岡本に帰った。松子はこの時、大事にしていた翡翠の帯止めを三百円で売って持って来た（三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」）。
7・?	谷崎は上山草人と一緒に目刺しと酒を携えて、吉井勇を相聞居に訪ねる（S9／3「中央公論」吉井勇「わが懺悔録」）。	31	午後4時頃、東京駅第7ホームで、松竹蒲田の清水監督以下、上山草人・岩田祐吉・田中絹代・及川道子らが、大臣が東京駅に着くシーンを撮影しようとしたが、「無届で警官の服装をして廻るのはけしからん」と中止させられた（「読売新聞」12・9「話の港」）。

※吉井勇はS5／8頃から、神奈川県高座郡南林間都市の親戚の別荘に住んでいた。竹三郎の学期末テストの朝、草人は佐藤春夫宛の手紙を竹三郎に渡して届けさせた。その内容は、昨日、草人の留守宅に谷崎が泊まった際、直子の蒲団の中で寝ていたというもの。竹三郎は佐藤宅に寄ったため、学期末テストを受け損ね、睡眠薬自殺を図る。その後、家出して、新聞配達をしながら東京府立第七中学を卒業し、主婦の友社代理部に勤めた（三田照子「ハリウッドの怪優」）。

※草人はこの手紙を竹三郎に書かせたと言う。自殺を図ったのは、草人が竹三郎（T7生まれ）と直子（T3生まれ）の関係を疑って、殴る蹴るの暴行を加えたせいもある（1997・3・22三田照子さんの細江宛私信）【実際には少なくとも1年以上後の出来事ではないかと細江は思う】。

「も歩けば」を五所平之助監督の演出で上場(松竹七十年史)。

◆昭和九年◆(1934)五十一歳

1・9	松子が風邪をこじらせ、肺炎で重体となったため、帝国ホテルから草人宅に移り、潤一郎・重子・直子夫人で、半月間、不眠不休の看護をする。潤一郎は松子の肌着はすべて自分でお風呂場で洗濯した(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)。	
13	松竹蒲田映画「歓楽の夜は更けて」封切り。上山草人出演(日本映画データベース <a href="http://www.jndb.ne.jp/index_2.htm">http://www.jndb.ne.jp/index_2.htm</a> )。「中央公論」に谷崎「東京をおもふ」連載第二回。上山草人への比較的長い言及がある。	6
1	松竹蒲田映画「東洋の母」封切り。草人が、財界の巨頭・郷島役で出演。他に藤井貢・川崎弘子・及川道子らが出演(日本映画データベース)。「悪そうな役に向く」ということで起用されたのであろう。五十年代に入って、老け役が多くなるのは当然か。	30
2	※この映画の撮影時か? 上山草人・及川道子・川崎弘子・藤井貢と一緒に谷崎の写真がある(「ハリウッドを駆けた怪優」パンフレット・三田照子「ハリウッドの怪優」1997・3・22三田照子さんの細江宛私信)。	7・7
3・5	草人宛谷崎書簡(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)。	11
11	佐藤春夫方鮎子宛谷崎書簡、上山草人方は男子出生。	
12	松子の上山草人宛書簡(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」) 転居通知。秋頃入籍。先頃、根津清太郎上京の節、お世話になりました。	12
19	上山草人宛谷崎書簡(「小生も松といふ字の存在のために中中家をあげる心になれませんが、そのうちに又上京御厄介になります。そちらの松の字にも直の字にもよろしく願ひます」(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)。	夜か13朝
(?)		23
4・6	この頃人気絶頂だったハリウッド映画の喜劇俳優 Joe E. Brown が来日。7日夕刊「読売新聞」記事によれば、早川雪洲や上山草人にも会いたいとコメントしている。	8・20
8	松五郎誕生(三田松五郎さんによる)【実際は3月15日前後に産まれていると思われる】。	夏頃?
	※草人が息子松五郎誕生を「薄氷を割って男子の産湯かな」と魚崎に電報で知らせて来る(谷崎「上山草人のこと」)。	9・20
	※草人「谷崎潤一郎との四十年」によれば、谷崎は「君の庵の一本松よ、きみかいほのかけしともなれ一本松あはれ」と祝いの歌を贈った。 ※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、命名の際、谷崎が相談に応じた。 「松樹万年緑 為松五郎」という色紙を谷崎が書いてくれたが、失われて今はない。 ※松五郎は、後にテレビ俳優となった(谷崎「上山草人のこと」)。 「改造」に谷崎潤一郎「春琴抄後語」掲載。 ※鶴見の草人宅で執筆。鶴見の家の前で撮った草人・直子・松五郎と潤一郎の写真がある。この時のものか?(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」) 夜、草人宅から松子宛谷崎書簡。「草人の家も中々暑うございますし明日より四五日笹沼別荘を借りることにいたしました。塩原にて仕事をすませ、一旦東京に帰り一二泊して後の計画をまとめた上にて帰らせて頂きます、今後約一週間程と思召頂きます」(松子「湘竹居追想」)。 上山草人方から和氣律次郎宛谷崎書簡。「新聞の前にまだ仕事が残つてゐると、新聞の方の腹案を一層カタめるため明日より四五日塩原温泉笹沼別荘へ行って参り十日頃までに帰ります」(八木書店古書目録 平成五年十一月)。 松子宛谷崎書簡。「文章読本」あと20枚、50円電送、十日頃出京、十二日頃帰宅予定、「改造」は放棄、東京では草人宅に宿泊(「中央公論」1993/2)。「東京日日新聞」夕刊小説(「夏菊」)の題と予告の口上だけ本社の方へ送った、「文章読本」すでに230枚書いたが、まだ完了せず、明日か明後日、草人宅へ行く。 草人宅へ戻る(11日松子宛谷崎書簡)。 (年月推定) 鶴見草人宅から和氣律次郎宛谷崎書簡(S63明治古典会七夕大入札会目録)。「文章読本」校正中。 ※草人「谷崎潤一郎との四十年」によれば、谷崎は、鶴見の草人宅の二階で「文章読本」や「源氏物語」を書いた。 「帝都日々新聞」所載佐藤周平「上山草人?」(のちS10「相当なもの」所収)によれば、草人はこの頃既に伊豆に別荘を持っていた。 上山草人・直子夫妻が谷崎宅を訪問、一週間ほど滞在(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)。 谷崎は、新宿角筈の「セノウ」にて、「辻潤君全快祝う会」の発起人となる。他	





23 夜、上山草人、ハルビン着(「東京朝日新聞」4・25十三面)。

草人は、午後4時40分東京駅着「桜」で、多数映画人の出迎えを受けながら賑やかに帰って来た。談話として、「モスクワ・レニングラードなど各地に約1ヶ月半程居た。映画界については、映画科学研究所など科学的研究の盛んな事には感心したが、作品が全部国家の宣伝に過ぎない点は遺憾に思った。露国民衆の窮乏していることは事実です。もともと漸く良くなるらしいですが。国境地方の軍備の嚴重なものには驚きました。」と語っている(4・28「読売新聞」記事)。

※三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」によれば、谷崎は、ソ連から帰国する草人を神戸に出迎えた(ただし30日とする)。そして数日後に鶴見の草人宅を訪ね、半月ほど滞在した。しかし草人は、谷崎が留守宅に一ヶ月ほど滞在していた事から直子との仲を疑い始め、谷崎に対して奥歯に物が挟まったような態度になっていた。

※草人が東京に帰るのに使った特急「桜」は、国際列車で、シベリア鉄道を經由して、ヨーロッパまで行き来できた。シベリア鉄道と日本との間には日本海があり、船で渡らなければならないが、そのルートには、敦賀―ウラジオストック、下関―釜山、神戸―大連の三つがあった。恐らく草人は、大連から神戸に帰り、そこで谷崎と再会の喜びを分かち合った後、「桜」に乗って帰京したのであろう。

黎明、上山草人、「露都映画祭のことども」攔筆。  
「読売新聞」記事「映画日本の四季ソ聯で笑はる」。国際観光局では、御自慢の映画「日本の四季」を上山草人に託してソヴェト各地で数回公開上映して大体好評を博したが、水田耕作の場面になると笑いが起こった。草人によれば、ソ連ではソフホーズ・コルホーズの大農業機械化耕作に慣れているため、菅笠・手甲の原始的な光景がおかしかったのだろう、と言う。そこで、観光局では、その部分をカットして、あらためてソ連に贈ることになった。

※国際観光局は、昭和5年に鉄道省に設けられたもの。  
招致が唱えられ、昭和5年に鉄道省に設けられたもの。  
夕、上山草人方より浜本浩宛谷崎書簡。

※谷崎が帰ると草人は、谷崎が地袋の襖に以前書いた松子への相聞歌二種も切り取り、松竹の野口鶴吉に与えた(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)。

※野口鶴吉は、Japanese Movie Databaseによれば、1959/4松竹(京都撮影所)の「修羅桜」に制作者、1964/12野口プロの「愛 その奇跡」に企画者として参

6 「改造」に上山草人の「露都映画祭のことども」掲載。  
以前「サンデー毎日」夏季特別号(6/10発行)に谷崎潤一郎「身辺雑事」掲載。酒は、上山草人と飲む時は、三合くらい、とある。

15 松竹映画「お琴と佐助」封切り。島津保次郎監督が、田中絹代・高田浩吉主演で谷崎潤一郎の「春琴抄」を映画化したもので、大ヒット。春松校役で草人が出演(田中純一郎「日本映画発達史」)。「盲人役は、ハリウッド流の大袈裟な演技が合っているからだろう」。

27 ※谷崎は原作のイメージに近いと賞賛(谷崎「映画のことなど」・松子「印象深い舞台と映画」)。「谷崎潤一郎文庫」月報9)。  
松竹蒲田作品「舞姫の暦」封切り。原作川端康成。監督佐々木康。出演本郷秀雄・水島光代・上山草人(「松竹七十年史」)。

7 「月刊ロシア」創刊号の座談会「モスクワの今昔を語る」に草人が参加。  
4 草人宅より松子宛谷崎書簡。草人の貯金二百円借りて送金する、10日頃帰宅(松子「湘竹居追想」)。  
5 草人宅より松子宛谷崎書簡(松子「湘竹居追想」)。  
6 草人宅より松子宛谷崎書簡(全集・松子「湘竹居追想」・木津エミ子宛谷崎書簡(観世恵美子所蔵)。  
12 草人宅から重子宛谷崎書簡。

8・6 草人は芝紅葉館で「文芸春秋」「世界の盛り場を語る座談会」に参加(同座談会中の記載による)。  
9 「文芸春秋」に「世界の盛り場を語る座談会」掲載。  
10・15 松竹の撮影所が大船に移転するための松竹創立十五周年記念・蒲田さよなら映画「永久の愛」に、草人も富豪浜田順の役で出演(「松竹七十年史」)。

12 谷崎は上京。鶴見の草人宅に三宅正太郎が来て、写真を撮った。草人に借りた着物を着て、庭で撮った(小説公園)S29/6三宅正太郎「大正文壇の人々」(一)―文壇右往左往(6)―)。

19 「読売新聞」記事「谷崎潤一郎の名優ぶり」。谷崎は、今年も押し詰まっから上京し、鶴見の上山草人の所で数日を過ごした。写真を撮るといので草人の着物を借り着したが、寸法が合わず、だぶだぶのを引きずって庭に出ると、途端に「こりゃ汚い池だなあ」と悪口一番は良かったが、その池の真ん中に立たねばならないとなると、暫し躊躇していたが「えーい、草人の着物だ、汚れたって知ら

「よみうり抄」谷崎潤一郎は上京中のところ本日下阪。  
 ないよ」とばかり裾をつまんで掛け声もろともしづくと踏み石伝いに歩を連  
 で行ったのは、まさに大谷崎の名優ぶり満点。

## A Short Chronological History of the Life of Sojin Kamiyama ; His Friendship with Junichiro Tanizaki

HOSOE Hikaru

**Abstract :** Sojin Kamiyama, one of the key figures in the creation of the modern Japanese theatre, was a friend of Junichiro Tanizaki throughout his lifetime.

He is also known as one of the few Japanese actors who performed in Hollywood silent films in the 1920s. However, his life has not been sufficiently studied ; his fellowship with Junichiro Tanizaki has not been fully investigated either. This paper presents his personal history based on various data, information and interviews with members of his family.